



Adobe

**LiveCycle 8.x から LiveCycle™ ES2  
への自動アップグレード  
(JBoss® 版)**

2010 年 9 月 24 日

**Adobe® LiveCycle™ ES2**

バージョン 9

© 2010 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

LiveCycle ES 8.x から Adobe® LiveCycle™ ES2 への自動アップグレード (JBoss 版)

2010 年 9 月 24 日

This guide is licensed for use under the terms of the Creative Commons Attribution Non-Commercial 3.0 License. This License allows users to copy, distribute, and transmit the guide for noncommercial purposes only so long as (1) proper attribution to Adobe is given as the owner of the guide; and (2) any reuse or distribution of the guide contains a notice that use of the guide is governed by these terms. The best way to provide notice is to include the following link. To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/>.

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Flash, FrameMaker, LiveCycle, PageMaker, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. IBM is a trademark of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. Intel and Pentium are trademarks or registered trademark of Intel Corporation or its subsidiaries in the U.S. and other countries. Oracle, Java, Solaris, and Sun are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Red Hat is a registered trademarks of Red Hat, Inc. in the United States and other countries. Linux is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries. Microsoft, SharePoint, Windows, and Windows Server are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.

# 目次

このドキュメントの内容.....	5
このドキュメントの対象読者 .....	5
このドキュメントで使用する表記 .....	5
関連情報 .....	6
<b>1 LiveCycle ES2 へのアップグレード（自動オプション）.....</b>	<b>7</b>
自動インストールの概要 .....	7
インプレースアップグレードまたはアウトオブプレースアップグレード.....	7
自動インストールのアーキテクチャ .....	8
オプションの Business Activity Monitoring ES2 デプロイメント.....	9
LiveCycle ES2 アップグレードの仕組み .....	9
タスクチェックリスト .....	11
<b>2 システムの前提条件.....</b>	<b>12</b>
開発環境と実稼働環境の比較 .....	12
その他の前提条件.....	12
ハードウェア .....	12
オペレーティングシステム .....	13
Web ブラウザのサポート .....	13
アプリケーションサーバー .....	16
LiveCycle ES（8.x）データファイルのバックアップ .....	16
アップグレードの前に.....	17
64 ビット Windows Server 2008、Windows 7 または Vista インストール用の設定.....	18
PDF Generator ES2 および PDF Generator 3D ES2 の事前設定.....	19
<b>3 LiveCycle ES2 への自動アップグレード（JBoss 版）.....</b>	<b>21</b>
インストーラの確認.....	21
アップグレードの例外.....	21
LiveCycle ES2 のインストール .....	22
サービスパックのインストール .....	24
アップグレードのための Connectors for ECM の準備.....	24
LiveCycle ES（8.x）から LiveCycle ES2 へのアップグレード .....	25
Business Activity Monitoring ES2 のアップグレードおよびデプロイ .....	32
次の手順.....	33
<b>4 デプロイメント完了後の作業.....</b>	<b>34</b>
JBoss サーバーからの JMS の削除 .....	34
JBoss サービスの再起動 .....	35
JBoss のステータスページの無効化.....	35
正しい日付、時刻およびタイムゾーンの設定.....	35
JBoss 用 SSL の手動による有効化 .....	35
JBoss 用 SSL の有効化 .....	36
LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストール .....	37
Workbench ES2 へのアップグレード .....	37
LiveCycle 管理コンソールへのアクセス .....	38
デフォルトのパスワードの変更 .....	38
モジュールの Web アプリケーションへのアクセス.....	38
Reader Extensions ES2 へのアクセス .....	39
Workspace ES2 へのアクセス .....	39

Rights Management ES2 へのアクセス .....	39
Business Activity Monitoring ES2 へのアクセス .....	40
Content Services ES2 へのアクセス .....	41
User Management へのアクセス .....	41
平文テキストパスワードの暗号化 .....	41
MySQL データベースの管理 .....	41
Forms ES2 キャッシュのリセット .....	42
LiveCycle ES2 の LDAP アクセス設定 .....	42
LiveCycle 7.x からアップグレードする場合の考慮事項 .....	43
HTML 電子署名の設定 .....	43
PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 の設定 .....	44
環境変数の設定 .....	44
HTTP プロキシサーバーを使用するようにアプリケーションサーバーを設定 .....	45
Adobe PDF プリンタをデフォルトのプリンタとして設定 .....	45
Acrobat Professional の設定 .....	45
Windows Server 2003 に東アジア文字をインストールするには .....	46
PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 監視フォルダのパフォーマンスパラメータの設定 .....	46
マルチスレッドファイル変換のユーザーアカウントの設定 .....	47
PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 へのフォントの追加 .....	47
HTML から PDF への変換の設定 .....	49
Microsoft Visio 2007 のデフォルトのマクロ設定を変更する .....	50
PDF Generator ES2 ネットワークプリンタクライアントのインストール .....	50
LiveCycle ES2 Connectors for ECM の設定 .....	51
SharePoint クライアントアクセスの設定 .....	55
share.war ファイルの取得と編集 .....	55
share.war ファイルのデプロイ .....	55
IPv6 モードでの CIFS の有効化 .....	56
contentservices.war ファイルの編集 .....	56
アップグレード後の LiveCycle ES のアンインストール .....	57
アップグレード後の作業ファイルの削除 .....	57
システムイメージバックアップの実行 .....	57
LiveCycle ES2 のアンインストール .....	58
<b>5 高度な設定作業 .....</b>	<b>59</b>
連邦情報処理規格 (FIPS) の有効化 .....	59
AES-256 暗号化の有効化 .....	59

# このドキュメントの内容

このドキュメントでは、自動オプションを使用して、LiveCycle ES (8.x) for Red Hat® JBoss® および MySQL から Adobe® LiveCycle® ES2 (Enterprise Suite) for Red Hat® JBoss® および MySQL にアップグレードする方法について説明します。自動オプションでは、製品のインストール、設定およびアップグレードが自動的に行われます。迅速な評価や開発を行うため、また小規模な実稼働用デプロイメントに対しては、このインストール方法をお勧めします。

LiveCycle ES2 のシステムを迅速に組み立てて、小規模な実稼働環境、デモンストレーション、評価、開発環境またはトレーニングを目的として実行するには、このアップグレード方法を実行してください。LiveCycle ES2 環境を機能させる、デフォルトの Adobe およびサードパーティの製品セットが自動的にインストールおよび設定されます。

このドキュメントで説明する作業を実行する前に、『[LiveCycle ES2 へのアップグレードの準備](#)』を読んでおいてください。自動アップグレードに必要なすべての手順はこのドキュメントに記載されていますが、『LiveCycle ES2 へのアップグレードの準備』にはアップグレードの計画に役立つ重要な情報が含まれています。

**注意：** LiveCycle 7.x からアップグレードする場合、まず LiveCycle ES Update 1 (8.2) にアップグレードしてから、LiveCycle ES2 にアップグレードします (バージョン 8.0.x へのアップグレードは可能ですが、推奨されません)。詳しくは、『[LiveCycle 7.x から LiveCycle ES2 へのアップグレード](#)』を参照してください。

## このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、LiveCycle ES (8.x) の自動デプロイメントからアップグレードするユーザーを対象としています。該当するユーザーには、LiveCycle ES2 のインストール、設定、管理またはデプロイを担当する評価担当者、管理者または開発者が含まれます。このドキュメントで扱う内容は、Microsoft® Windows® オペレーティングシステムおよび Web 環境に関する十分な知識がある読者を想定しています。

## このドキュメントで使用する表記

このドキュメントで使用する一般的なファイルパスの命名規則は、次のとおりです。

名前	デフォルト値	説明
[LiveCycleES2 root]	C:\¥Adobe¥Adobe LiveCycle ES2¥	すべての LiveCycle ES2 モジュールで使用するインストールディレクトリ。このディレクトリには、LiveCycle Configuration Manager、LiveCycle ES2 SDK、およびインストールされた各 LiveCycle ES2 ソリューションコンポーネントがサブディレクトリに分かれて格納されています。
[JBossES2 root]	C:\¥Adobe¥Adobe LiveCycle ES2¥jboss	LiveCycle ES2 を実行するアプリケーションサーバーのホームディレクトリ。
[Adobe_JAVA_HOME]	C:\¥Adobe¥Adobe LiveCycle ES2¥Java	LiveCycle ES2 自動オプションでインストールされる Java JDK のホームディレクトリ。

## 関連情報

次の表に、LiveCycle ES2 の学習に役立つ情報を示します。

情報	参照先
自動オプション以外の方法を使用した LiveCycle ES2 へのアップグレード	<a href="#">LiveCycle ES2 へのアップグレード (JBoss 版)</a> <a href="#">LiveCycle ES2 へのアップグレード (WebSphere 版)</a> <a href="#">LiveCycle ES2 へのアップグレード (WebLogic 版)</a>
LiveCycle ES2 およびモジュールに関する一般的な情報	<a href="#">LiveCycle ES2 の概要</a>
この LiveCycle ES2 リリースの新機能	<a href="#">LiveCycle ES2 の新機能</a>
LiveCycle ES2 リリース情報および製品に加えられた最新の変更	<a href="#">LiveCycle ES2 リリースノート</a>
LiveCycle ES2 の用語	<a href="#">LiveCycle ES2 用語集</a>
新規自動インストーラ	<a href="#">LiveCycle ES2 の自動インストーラおよびデプロイ</a>
LiveCycle ES2 に統合できる他のサービスや製品	<a href="#">Adobe デベロッパーセンター</a>
LiveCycle ES2 モジュール	<a href="#">Adobe LiveCycle ES2 (Enterprise Suite)</a>
LiveCycle ES2 のすべてのドキュメント	<a href="#">Adobe LiveCycle ES2 ドキュメンテーション</a>
現在のバージョンに関するパッチアップデート、テクニカルノートおよび関連情報	<a href="#">LiveCycle テクニカルサポート</a>

# 1

## LiveCycle ES2 へのアップグレード（自動オプション）

この章では、自動オプションを使用して、LiveCycle ES (8.x) の自動インストールから LiveCycle ES2 にアップグレードする方法について説明します。この自動インストールオプションは評価環境、開発者用の環境および小規模な実稼働環境の迅速なインストールに最適です。自動オプション以外を使用して LiveCycle ES (8.x) をインストールした場合（JBoss への手動設定およびデプロイメント、WebSphere または WebLogic へのデプロイメント）は、使用しているアプリケーションサーバー版の『[LiveCycle ES2 へのアップグレード](#)』を参照してください。

**注意：** 自動オプションを使用してアップグレードできるのは、自動で LiveCycle ES (8.x) をインストールし、自動インストールの一部として含まれていた JBoss インスタンスに LiveCycle ES (8.x) ソリューションコンポーネントをデプロイしている場合です。

このドキュメントには次の情報が含まれています。

- LiveCycle ES2 への自動アップグレードのシステム要件の説明。
- LiveCycle ES (8.x) データのバックアップ
- アップグレードを開始および完了するために必要なすべての手順（この手順を完了すると、LiveCycle ES2 は JBoss 上で実行され、要求を受け入れる準備が整います）。
- LiveCycle 管理コンソールおよび User Management へのアクセス、使用可能な Web アプリケーション（ライセンスされている LiveCycle ES2 モジュールによって異なる）へのアクセスを含む、次にできることに関する詳細。

**注意：** LiveCycle ES2 の自動インストーラによって JBoss JMS サービスは無効になるため、LiveCycle Foundation の JMS サービスは使用できなくなります。LiveCycle Foundation JMS サービスのサンプルは機能しなくなります。LiveCycle Foundation JMS サービスとサンプルを有効にするには、インストールの準備ガイドの「JMS およびクラスタ化の設定ファイルの削除」を参照してください。

### 1.1 自動インストールの概要

LiveCycle Configuration Manager では、Windows のみで実行されている JBoss Application Server および MySQL データベースで、LiveCycle ES (8.x) 自動デプロイメントを LiveCycle ES2 にアップグレードするために必要なタスクのほとんどが自動で実行されます。

#### 1.1.1 インプレースアップグレードまたはアウトオブプレースアップグレード

LiveCycle ES (8.x) からアップグレードする場合、LiveCycle Configuration Manager で LiveCycle ES2 環境を設定する方法に影響があるシナリオが 2 つあります。

**注意：** アプリケーションサーバーの種類、オペレーティングシステムの種類またはデータベースの種類を変更する場合、アップグレードを実行できません。この場合は、新規インストールと見なされます。例えば、アプリケーションサーバーを WebLogic から JBoss へ変更する場合は、新規インストールを実行する必要があります。

**インプレースアップグレード：** 既存の LiveCycle ES (8.x) アプリケーションサーバーインスタンスを使用して LiveCycle ES2 にアップグレードする場合、このアップグレードはインプレースと見なされます。

**警告：** LiveCycle ES2 は JBoss 4.0.x をサポートしていないため、JBoss 自動アップグレードを使用してインプレースアップグレードを実行することはできません。LiveCycle ES2 自動アップグレードによって新しい JBoss 4.2.1 のインスタンスがインストールされます。

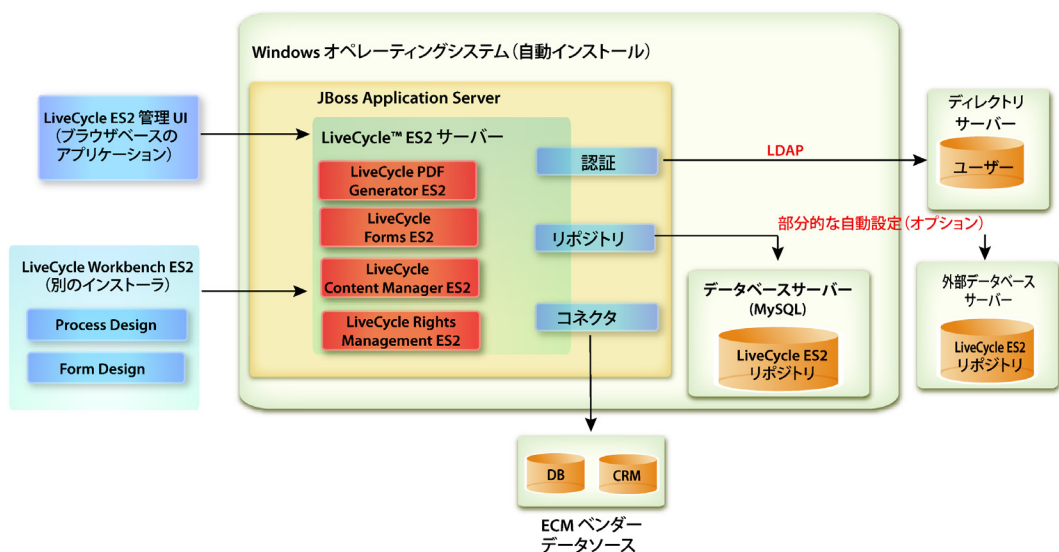
**アウトオブプレースアップグレード:** LiveCycle ES2 にアップグレードし、コンピュータの変更、アプリケーションサーバーのバージョン (メジャーバージョン) の更新を行う場合、このアップグレードは「アウトオブプレース」と見なされます。その結果、新しい JBoss バージョンになるため、自動アップグレードはアウトオブプレースになります。

32 ビットバージョンのアプリケーションサーバーから 64 ビットバージョンのアプリケーションサーバーへ移行する場合も、「アウトオブプレース」と呼ばれます。この方法は、LiveCycle ES2 をローカルにインストールする場合、またはリモートサーバーにインストールする場合に使用できます。

『[LiveCycle ES2 のインストールの準備 \(シングルサーバー\)](#)』の手順に従って、新しいオペレーティングシステム、アプリケーションサーバーまたはデータベースを準備します。

## 1.2 自動インストールのアーキテクチャ

次の図は、LiveCycle ES2 自動インストールを示します。



一部のコンポーネントは自動インストールの一部としてはオプションです。例えば、次のように指定します。

- LDAP Directory Server - LiveCycle ユーザーをセットアップするには、LDAP で認証する必要はありません。実験やテスト目的の場合、LiveCycle ES2 User Management (LiveCycle 管理コンソールから使用可能) を使用して、新しいユーザーアカウントを作成します。
- 部分的な自動オプション - 外部データベースサーバー - 標準の自動インストールには、事前設定した MySQL データベースが含まれます。
- コネクタ - LiveCycle ES2 は ECM ベンダーのデータソースに接続できます (適用可能な場合)。

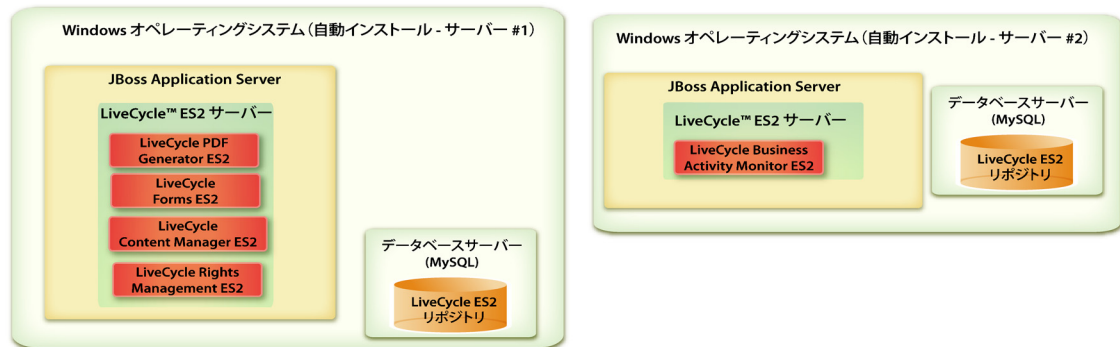
**注意:** 上の図は、プロセスを作成し、LiveCycle ES2 サーバーにデプロイするために必要な LiveCycle Workbench ES2 を示します。LiveCycle Workbench ES2 をインストールするには、『[Installing Your Development Environment](#)』を参照してください。

## 1.2.1 オプションの Business Activity Monitoring ES2 デプロイメント

LiveCycle ES2 自動インストールを使用すると、スタンドアロンアプリケーションとして LiveCycle Business Activity Monitoring ES2 をインストールおよび設定できます。LiveCycle ES2 サーバーから独立したスタンドアロンサーバーに BAM をインストールすると、パフォーマンスは向上します。

**注意：** LiveCycle Business Activity Monitoring ES2 は、64 ビットオペレーティングシステムでのみサポートされます。自動オプションを使用して BAM をインストールする場合、スタンドアロンバージョンの JBoss がサーバーにインストールされます。そのため、BAM とその他の LiveCycle ES2 コンポーネントをインストールする場合、サーバーには 2 インスタンスの JBoss がインストールされます。

次の図は、LiveCycle ES2 自動デプロイメントとスタンドアロン BAM インストールを示します。



## 1.3 LiveCycle ES2 アップグレードの仕組み

LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 にアップグレードするには、主に次のタスクを実行する必要があります。これらの多くは、自動オプションを使用してインストールおよびデプロイする場合は自動で行われます。

1. LiveCycle ES (8.x) データの手動バックアップ。
2. 新しいアプリケーションサーバー (新しいバージョンは LiveCycle ES2 でサポートされます) など、LiveCycle ES2 製品ファイルのインストール。
3. (オプション - LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ) LiveCycle 7.x の EAR ファイルから設定およびデータを抽出し、LiveCycle ES2 の EAR ファイルおよびデータベースに適用します (LiveCycle Policy Server のアップグレードには該当しません)。
4. LiveCycle ES2 の EAR ファイルをアップグレードおよびデプロイします。
5. LiveCycle ES2 サービスコンポーネントを更新 (パッチを適用) します。
6. (オプション) LiveCycle ES2 EAR ファイルに互換レイヤーを適用します。互換レイヤーは、LiveCycle 7.x で開発されたカスタムアプリケーションをサポートする、推奨されない Enterprise JavaBeans™ (EJB)、クラス、サーブレットおよび CORBA API で構成されており、これらの従来のアプリケーションが引き続き LiveCycle ES2 で動作するようにします。
7. User Management を使用していた LiveCycle 7.x 製品 (LiveCycle Forms、LiveCycle PDF Generator および LiveCycle Workflow) 用として、LiveCycle ES2 データベースにデータを移行します。
8. すべての LiveCycle ES (8.x) JMS 設定を削除します。

インストールプログラムまたは LiveCycle Configuration Manager で、ほとんどのタスクが実行されます。このドキュメントの手順で説明するように、プロセス全体に渡って、入力の手順があります。

## 自動アップグレードプロセスで実行されるタスクの詳細

もともと自動オプションを使用して LiveCycle ES (8.x) をインストールしていた場合は、自動アップグレードプロセスを使用して LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 へ移行できます。自動化されたインストールおよびアップグレードプロセスでは、次のタスクが実行されます。

- LiveCycle ES2 製品ファイルをインストールします。
- 事前設定バージョンの JBoss 4.2.1 Application Server (Apache Tomcat サブレットコンテナが埋め込まれているもの) をインストールします。
- 既存の MySQL 5.0.18 データベースを再利用します。アップグレード前に、データベースのバージョンを MySQL 5.1.30 に手動で更新しておく必要があります（「[LiveCycle ES JBoss 版自動インストールのための MySQL データベースの 5.0.18 から 5.1.30 へのアップグレード](#)」を参照）。

**注意：**アップグレードプロセス中に、LiveCycle Configuration Manager によって既存の MySQL データベーススキーマは更新され、LiveCycle ES (8.x) ではレンダリングできなくなります。アップグレードを実行する前に、必ずデータベースのバックアップを作成してください。

- LiveCycle Configuration Manager を起動します。
- JBoss for Adobe LiveCycle ES (8.x) サービスを停止します。
- LiveCycle ES (8.x) のデフォルトの場所にあるグローバルドキュメントストレージ (GDS) の内容を LiveCycle ES2 のデフォルトの場所に移行します。

**注意：**LiveCycle ES の GDS の場所を変更した場合は、LiveCycle ES2 GDS の場所もそれに合わせるか、新しい LiveCycle ES2 の GDS の場所に LiveCycle ES (8.x) のコンテンツを手動でコピーする必要があります。

- カスタムデータソースを LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 に移行します。
- LiveCycle ES (8.x) EAR ファイルから設定データを抽出します。このタスクが該当するのは、LiveCycle 7.x 互換性レイヤーのインストールを選択した場合のみです。
- LiveCycle ES2 の EAR ファイルを設定してアセンブルします。LiveCycle 7.x API サポートをサポートするこのオプションを選択すると、このタスクに互換レイヤーの EAR ファイルへの結合が含まれます。
- LiveCycle 7.x EAR ファイルから抽出した適切なデータを適用し、LiveCycle API 互換レイヤーを LiveCycle ES2 に適用します。
- JBoss for Adobe LiveCycle ES2 サービスを開始します。
- LiveCycle ES2 を JBoss にデプロイします。
- MySQL 5.1.30 データベースの初期化
- 必要なコンポーネントをすべて JBoss にデプロイします。
- 前のサービス設定パラメータ、エンドポイント、監視フォルダなどを保持する LiveCycle ES コンポーネントを更新（パッチ適用）します。
- GDS ディレクトリ内のドキュメント、設定、構成データ、フォントなど、重要なデータを LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 へ移行します
- LiveCycle 7.x 互換ソリューションコンポーネントをデプロイします
- LiveCycle ES2 Connectors for ECM、PDF Generator ES2、Reader Extensions ES2 などのモジュールを設定します。
- LiveCycle ES2 サンプルを JBoss に読み込みます。

## 1.4 タスクチェックリスト

このドキュメントには、すべてのアップグレードタスクの手順が含まれています。シングルサーバーで自動オプションを使用して LiveCycle ES (8.x) 製品を LiveCycle ES2 にアップグレードするには、次のタスクを実行する必要があります。

タスク	トピック
LiveCycle ES (8.x) 環境をバックアップします。	<a href="#">「LiveCycle ES (8.x) データファイルのバックアップ」 (16 ページ)</a>
(LiveCycle PDF Generator ES2 アップグレードのみ) Acrobat メディアから Adobe Acrobat をインストール します。	<a href="#">「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用の Acrobat のインストール」 (19 ページ)</a>
LiveCycle ES2 インストールプログラムを使用して LiveCycle ES2 をインストールします。	<a href="#">「LiveCycle ES2 のインストール」 (22 ページ)</a>
LiveCycle Configuration Manager を起動して、 LiveCycle ES2 へのアップグレードを選択します。	<a href="#">「LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 へのアップ グレード」 (25 ページ)</a>
デプロイメント完了後の作業を行います。	<a href="#">「デプロイメント完了後の作業」 (34 ページ)</a>

## 2

# システムの前提条件

この節では、自動オプションを使用して LiveCycle ES2 をインストールする際のハードウェアおよびソフトウェアの要件について説明します。

## 2.1 開発環境と実稼働環境の比較

自動インストールを使用して、開発および評価用に 1 つのシステムにすべてのモジュールをインストールします。対象のコンピュータに 4 GB 以上の RAM が搭載されていることを確認してください。さらに、LiveCycle Business Activity Monitoring ES2 を別の 64 ビット Windows サーバーにインストールします。Business Activity Monitoring ES2 は 32 ビットシステムではサポートされていませんが、他の LiveCycle ES2 コンポーネントは 32 ビットオペレーティングシステムでサポートされています。

実稼働として使用する場合は、Business Activity Monitoring ES2 を別のアプリケーションサーバーにデプロイします。より大規模な実稼働環境では、64 ビットオペレーティングシステムおよびアプリケーションサーバーの両方を実行している専用のシステムに Business Activity Monitoring ES2 をインストールする必要があります。

## 2.2 その他の前提条件

LiveCycle ES2 をインストールする前に、次の必要なハードウェアおよびソフトウェアがインストールされていることを確認する必要があります。

- [「ハードウェア」\(12 ページ\)](#)
- [「オペレーティングシステム」\(13 ページ\)](#)
- [「Web ブラウザのサポート」\(13 ページ\)](#)
- [「アプリケーションサーバー」\(16 ページ\)](#)

また、LiveCycle PDF Generator ES2 を LiveCycle ES2 ソリューションの一部として含めている場合は、インストールを開始する前に次のタスクを実行してください。

- [「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 のインストール時にサービスとしてログオンの権限を付与」\(19 ページ\)](#)
- [「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用の Acrobat のインストール」\(19 ページ\)](#)

### 2.2.1 ハードウェア

どのインストールに関しても、最低限の設定として以下が推奨されます。

- インストール用のディスク容量：3 GB (ESD ダウンロードを使用し、DVD からインストールを行わない場合は、さらに 3 GB が必要です)。
- インストール中のシステムの一時的容量：5.4 GB
- LiveCycle ES2 を実行するためのメモリ：3.4 GB
- プロセッサ：Intel® Pentium® 4 または同等の、1.6 GHz 以上のプロセッサ

## 2.2.2 オペレーティングシステム

自動オプションでは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムがサポートされています。

- 32 ビットおよび 64 ビットアーキテクチャで稼働する Windows Server 2003 Standard および Enterprise Edition SP2 以降
- 32 ビット、64 ビットおよび VMWare ESX/GSX のアーキテクチャで稼働する Windows Server 2003 Standard および Enterprise Edition R2 SP2
- 64 ビットアーキテクチャで稼働する Windows Server 2008 Standard および Enterprise Edition (実稼働環境が必要)
- Business Activity Monitoring ES2 には 64 ビットオペレーティングシステムが必要です。BAM も同じマシンにインストールする場合、LiveCycle ES2 のインストールに 64 ビット Windows オペレーティングシステムを選択します

Windows Server 2008 Enterprise Edition 環境での事前設定については、[「64 ビット Windows Server 2008、Windows 7 または Vista インストール用の設定」\(18 ページ\)](#) を参照してください。

**注意：** Microsoft Windows XP (SP2 または SP3)、Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット)、および Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット) は LiveCycle ES2 の評価および開発でサポートされています。Business Activity Monitoring ES2 は Windows 7 でサポートされていません。

**注意：** Windows に管理者権限が必要です。この権限がないアカウントを使用してインストーラを実行すると、管理者権限を持つアカウントの資格情報が求められます。

## 2.2.3 Web ブラウザのサポート

ここでは、LiveCycle ES2 のユーザーインターフェイスでサポートされている Web ブラウザについて概要を説明します。LiveCycle ES2 の自動インストールは Windows のみですが、他のオペレーティングシステムが動作しているコンピュータからエンドユーザー用ユーザーインターフェイスにリモートでアクセスできます。サポートされている Web ブラウザについては、次の表を参照してください。

一部の LiveCycle ES2 モジュールを表示するには、サポートされているバージョンの Flash Player ([www.adobe.com/jp/](http://www.adobe.com/jp/) から入手可能) をインストールする必要があります。

### 2.2.3.1 エンドユーザー用ユーザーインターフェイス

エンドユーザーのコンポーネントには、次のモジュールが含まれます。

- LiveCycle Workspace ES2 (Flash Player が必要)  
**注意：** Workspace ES2 には、また Workspace ES2 のフォームガイドを使用するには、Adobe Flash Player 9.0.115.0 以降が必要です。
- LiveCycle Reader Extensions ES2 (Flash Player が必要)
- LiveCycle Rights Management ES2 (Flash Player が必要)
- LiveCycle PDF Generator ES2 および LiveCycle PDF Generator 3D ES2 (ブラウザのみ)
- LiveCycle Content Services ES2 (ブラウザのみ)

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Microsoft Windows Vista™	Flash Player 9 または 10	Microsoft Internet Explorer 7 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Windows 2000	Flash Player 9 または 10	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Windows XP	Flash Player 9 または 10	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Microsoft Windows 7	Flash Player 9 または 10	Microsoft Internet Explorer 8.0 以降 Firefox 3.0 以降
Windows Server 2003	Flash Player 9 または 10	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Microsoft Windows Server 2008	Flash Player 9 または 10	Microsoft Internet Explorer 7 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Mac OS X v 10.4.x または 10.5.x (PowerPC)	Flash Player 9 または 10	Firefox 3.0 以降 (Workspace ES2 ではサポートされません) <sup>(1) (2)</sup> Safari 3.x または 4.x (Workspace ES2 および Content Services ES2 にはバージョン 3.0.3 以降が必要)
Mac OS X v 10.4.x、10.5.x または 10.6.x (Intel)	Flash Player 9 または 10	Firefox 3.0 以降 (Workspace ES2 ではサポートされません) <sup>(1) (2)</sup> Safari 3.x または 4.x (Workspace ES2 および Content Services ES2 にはバージョン 3.0.3 以降が必要)

(1) 「以降」のバージョンには、メジャーリビジョンが含まれます。例えば、Internet Explorer 6 以降には Internet Explorer 7 と 8 も含まれます。

(2) Workspace ES2 は、Windows では Internet Explorer および Firefox がサポートされていますが、Mac では Safari 3.0.3 以降のみがサポートされます。

- LiveCycle Forms ES2

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Microsoft Windows Vista™	該当なし	Microsoft Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup> Netscape 8.x 以降
Windows XP	該当なし	Microsoft Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup> Netscape 8.x 以降

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Windows 7	該当なし	Microsoft Internet Explorer 7.0 以降 Firefox 3.0 以降
Windows Server 2003	該当なし	Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Windows Server 2008	該当なし	Microsoft Internet Explorer 7.0 以降 Firefox 3.0 以降
Linux (Intel)	該当なし	Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup> Netscape 8.x 以降
Mac OS X v 10.4.x または 10.5.x (PowerPC)	該当なし	Safari 3.x または 4.x
Mac OS X v 10.4.x、10.5.x また は 10.6.x (Intel)	該当なし	Safari 3.x または 4.x

<sup>(1)</sup> 「以降」のバージョンには、メジャーリビジョンが含まれます。例えば、Internet Explorer 6 以降には Internet Explorer 7 と 8 も含まれます。

- LiveCycle Business Activity Monitoring ES2

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Microsoft Windows Vista™	Flash Player 9 また は 10	Microsoft Internet Explorer 7 以降 <sup>(1)</sup>
Windows XP	Flash Player 9 また は 10	Microsoft Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup>
Windows Server 2000	Flash Player 9 また は 10	Microsoft Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup>

<sup>(1)</sup> 「以降」のバージョンには、メジャーリビジョンが含まれます。例えば、Internet Explorer 6 以降には Internet Explorer 7 と 8 も含まれます。

### 2.2.3.2 管理者用ユーザーインターフェイス

次の表に、LiveCycle 管理コンソールのユーザーインターフェイスでサポートされている Web ブラウザの概要を示します。

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Microsoft Windows Vista	該当なし	Internet Explorer 7 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Windows 2000	該当なし	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>

オペレーティングシステム	Flash Player	対応ブラウザ
Windows XP	該当なし	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>
Windows Server 2003	該当なし	Internet Explorer 6 以降 <sup>(1)</sup> Firefox 3.0 以降 <sup>(1)</sup>

(1) 「以降」のバージョンには、メジャーリビジョンが含まれます。例えば、Microsoft Internet Explorer 6 以降には Microsoft Internet Explorer 7 および 8 も含まれます。

## 2.2.4 アプリケーションサーバー

自動オプションでは、JBoss 4.2.1 (Apache Tomcat サブレットコンテナを含む) がサポートされています。

既存の LiveCycle ES (8.x) 環境をアップグレードすると、LiveCycle ES2 がインストールされ、新しいインスタンスの JBoss Application Server 4.2.1 が設定されます。アップグレードした環境が適切に動作していることを確認したら、サーバーから古い JBoss インスタンスを削除できます。

## 2.3 LiveCycle ES (8.x) データファイルのバックアップ

アップグレードプロセスを開始する前に、Java SDK、インストールファイル、監視フォルダの内容、一時ディレクトリなど、LiveCycle ES (8.x) のデプロイメントに関連するすべてのファイルとディレクトリをバックアップする必要があります。これらの要素を削除しないでください。関連するバックアップタスクは次のとおりです。

- LiveCycle ES (8.x) サーバーを停止します。長期間有効なプロセスがすべて停止するまで待ち (または必要に応じて手動で停止し)、以下のドキュメントに従ってコールドバックアップを実行します。

**LiveCycle ES (バージョン 8.0) :** 技術記事『[LiveCycle ES Database and GDS Backup and Recovery](#)』を参照してください。

**LiveCycle ES Update 1 (バージョン 8.2) :** 『[LiveCycle ES の管理](#)』ガイドの「バックアップと回復」の章を参照してください。

次の LiveCycle データをバックアップに含める必要があります。

**GDS ディレクトリ :** このディレクトリは、ローカルドライブまたは共有ネットワークドライブ上のいずれかにあります。

**データベース :** 前述のガイドで説明されているようにデータベースのバックアップユーティリティを使用します。現行のデータベースがサポート対象外になった場合は、新しい LiveCycle ES2 データベースへデータを移行する必要もあります。

**LiveCycle ES (8.x) EAR ファイル :** アップグレード時に、LiveCycle Configuration Manager で EAR ファイルの場所を指定する必要があります。LiveCycle 7.x からアップグレードする場合、設定時に EAR ファイルから関連情報が抽出されます。また、このファイルは、アップグレードに関する問題が発生した場合にシステムを復元するために必要です。

**コンテンツ保存場所のルートディレクトリ :** 現行のシステムで Content Services ES をデプロイしている場合は、lccs\_data ディレクトリをバックアップします。このディレクトリは、ローカルドライブまたは共有ネットワークドライブ上のいずれかにあります。

**LiveCycle フォント**：LiveCycle Configuration Manager (設定／コアシステム／設定) で指定されている、ユーザーによるインストールフォントおよび Adobe フォントのディレクトリをすべてバックアップします。その際、ディレクトリ全体をバックアップしてください。

**ユーザーによるインストールフォント**：LiveCycle ES (8.x) 環境に追加のフォントをインストールした場合は、それぞれ個別にバックアップします。

## 2.4 アップグレードの前に

LiveCycle ES2 へのアップグレードを開始する前に、次の情報を通読して、現在のインストールが円滑に動作していることを確認してください。

- インストール時間を短縮するには、共有ネットワークからではなく、インストールファイルセットのローカルコピーを使用するか、DVD から直接、LiveCycle ES2 をインストールしてください。
- 入手したインストールメディアが破損していないことを確認します。インストールメディアをコンピュータのハードディスクにコピーする場合は、必ず DVD の内容全体をハードディスクにコピーしてください。
- インストーラファイルセットをダウンロードした場合は、MD5 チェックサムユーティリティを使用して完全性を検証してください。このユーティリティを使用して、MD5 のチェックサム値とアドビのダウンロード Web サイトに表示される値を確認します。WinMD5 などのツールを使用できます。
- インストールエラーを避けるには、最大パス長の制限を超えるディレクトリパスに DVD インストールイメージをコピーしないでください。通常、ネットワークパスが長い場合に、このエラーが発生します。詳しくは、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa365247.aspx> を参照してください。
- [LiveCycle テクニカルサポート](#) から入手可能な LiveCycle ES2 用のパッチアップデートをダウンロードします。
- Windows でインストールの速度を上げるには、インストール中にオンアクセスウイルススキャンソフトウェアを無効にします。
- 自動インストールでは、次の Windows サービスが作成され、デフォルトで起動時に自動的に実行するよう設定されます。
  - JBoss for Adobe LiveCycle ES2
  - MySQL for Adobe LiveCycle ES2 (自動アップグレード中の既存の LiveCycle ES (8.x) と同じコンピュータに LiveCycle ES2 をインストールする場合は適用できません)

これらのサービスは、自動アップグレード用にアプリケーションサーバーとデータベースを管理します。これらのサービスは、Windows サービスコントロールマネージャを使用して開始、停止および一時停止できます。Windows サービスコントロールマネージャを開くには、コントロールパネル／管理ツール／サービスに移動します。このツールを使用すると、コンピュータ起動時に開始するよう、または手動による開始を要求するよう、サービスを設定することもできます。

- デフォルトの自動インストールでは、LiveCycle ES2 のコンポーネントは、C:\Adobe\Adobe LiveCycle ES2\ディレクトリ (ここでは [LiveCycleES2 root] ディレクトリと呼びます) にインストールされます。

**警告**：デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は、ディレクトリ名に「test」(C:\test など) という名前を使用しないでください。この名前を使用すると、MySQL のインストールプロセスが失敗します。

- デフォルトでは、JBoss は [LiveCycleES2 root]/jboss ディレクトリにインストールされ、ここから実行されます。

## 2.4.1 64 ビット Windows Server 2008、Windows 7 または Vista インストール用の設定

64 ビット Windows Server 2008 または Vista オペレーティングシステムでは、次のように管理者承認モードのセキュリティオプションを変更します。

1. スタート/コントロールパネル/管理ツール/ローカルセキュリティポリシー/ローカルポリシー/セキュリティオプションを選択します。
2. 「ユーザーアカウント制御：管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプトの動作」を探し、「確認を要求しないで昇格する」に設定します。
3. コンピュータを再起動します。

**警告：** PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 が正しく動作するように、Windows のユーザーアカウント制御 (UAC) を無効のままにしておく必要があります。UAC の「確認を要求しないで昇格する」オプションを有効にすることで、インストールおよび設定のプロセスを実行できます。ただし、PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 を実行するには UAC を無効にする必要があります。

評価用のシステムでインストールと設定を行う場合は、実稼働環境用のコンピュータにデプロイした後や、PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 をアンインストールした後で、コンピュータ上で UAC を有効にできます。

### ► Vista 上での Windows UAC の無効化：

1. システム構成ユーティリティにアクセスするには、スタート/ファイル名を指定して実行を選択し、「名前」ボックスに `MSCONFIG` と入力します。
2. 「ツール」タブをクリックし、スクロールして「UAC の無効化」を選択します。
3. 「起動」をクリックして新しいウィンドウでコマンドを実行します。
4. 完了したら、コマンドウィンドウを閉じ、システム構成ウィンドウを閉じます。
5. コンピュータを再起動します。

再度 UAC を有効にするには、上記の手順を繰り返し、「UAC の有効化」を選択して、「起動」をクリックします。

### ► Server 2008 上での Windows UAC の無効化：

1. スタート/コントロールパネル/ユーザーアカウント/ユーザーアカウント制御の有効化または無効化を選択します。
2. 「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」オプションの選択を解除し、「OK」をクリックします。
3. コンピュータを再起動します。

再度 UAC を有効にするには、上記の手順を繰り返し、「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」オプションを選択してコンピュータを再起動します。

### ► Windows 7 上での Windows UAC の無効化：

1. システム構成ユーティリティにアクセスするには、スタート/ファイル名を指定して実行を選択し、「名前」ボックスに `MSCONFIG` と入力します。
2. 「ツール」タブをクリックし、スクロールして「UAC 設定の変更」を選択します。
3. 「起動」をクリックして新しいウィンドウでコマンドを実行します。

4. スライダを「通知しない」のレベルに設定します。
5. 完了したら、コマンドウィンドウを閉じ、システム構成ウィンドウを閉じます。
6. コンピュータを再起動します。

UAC を再度有効にするには、上記の手順を繰り返し、スライダを目的のレベルに設定してからコンピュータを再起動します。

## 2.4.2 PDF Generator ES2 および PDF Generator 3D ES2 の事前設定

PDF Generator ES2 または LiveCycle PDF Generator 3D ES2 をインストールする前に、次の 2 つの節で示すタスクを実行します。PDF Generator ES2 または LiveCycle PDF Generator 3D ES2 のネイティブアプリケーションサポートを有効にするには、Windows で Microsoft 管理者に対して「サービスとしてログオン」の権限を付与してから自動インストールを開始します。ネイティブアプリケーションファイルサポートによって、PDF Generator ES2 および PDF Generator 3D ES2 で、Microsoft Word などのネイティブ形式から Adobe PDF 形式にファイルを変換できます。

### 2.4.2.1 PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 のインストール時にサービスとしてログオンの権限を付与

Windows オペレーティングシステムに PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 をインストールする場合は、LiveCycle ES2 をインストールするユーザーに対して「サービスとしてログオン」の権限を付与します。

#### ▶ サービスとしてログオンの権限を設定するには

1. スタート/コントロールパネル/管理ツール/ローカルセキュリティポリシー/ローカルポリシー/ユーザー権利の割り当てを選択します。
2. 「サービスとしてログオン」をダブルクリックして、「ユーザーまたはグループを追加」をクリックします。
3. Microsoft 管理者のユーザー名を入力して「OK」をクリックします。

### 2.4.2.2 PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用の Acrobat のインストール

LiveCycle PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 では、様々なネイティブファイル形式を PDF に変換できます。PDF に変換可能なネイティブファイル形式は、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint、Microsoft Project、Microsoft Visio、Corel WordPerfect、Adobe Photoshop® (CS2 のみ)、Adobe FrameMaker® および Adobe PageMaker® の各ファイル形式です。

PDF Generator ES2 アプリケーションまたは PDF Generator 3D ES2 アプリケーションのネイティブファイル形式の変換または光学文字認識 (OCR) 生成を使用する場合は、LiveCycle ES2 インストールプログラムを実行する前に、PDF Generator ES2 を実行するコンピュータに Acrobat 9.2 Professional Extended をインストールします。Acrobat 9.2 を後からインストールして、手動のタスクをいくつか追加で実行することもできます。

PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 でこの機能をサポートするための設定を行わない場合は、Acrobat 9.2 Professional Extended へのアップグレードやインストールは必要ありません。ただし、Microsoft Office 2007 を使用した変換をサポートするには、Acrobat 9.2 Professional Extended にアップグレードすることをお勧めします。

▶ **PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用に Acrobat 9.2 Professional Extended をインストールするには**

1. Windows コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を使用して、すべてのバージョンの Acrobat をアンインストールします。
2. コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示された場合は、再起動を行います。
3. インストールメディアまたはインストーラファイルセットが含まれるフォルダから、AutoPlay.exe を実行して Acrobat 9.2 Professional Extended をインストールします。
4. Acrobat のインストーラ画面の指示に従って作業を進めます。

## 3

# LiveCycle ES2 への自動アップグレード (JBoss 版)

ここでは、LiveCycle ES (8.x) 自動インストーラ (JBoss 版) から LiveCycle ES2 にアップグレードする方法について説明します。

## 3.1 インストーラの確認

インストールプロセスを開始する前に、インストーラファイルについて、次のベストプラクティスを確認してください。

### ▶ DVD インストールメディアの確認：

入手したインストールメディアが破損していないことを確認します。LiveCycle ES2 をインストールするコンピュータのハードディスクにインストーラのメディアコンテンツをコピーする場合は、必ず、すべての DVD コンテンツをハードディスクにコピーしてください。インストールエラーを避けるには、Windows のパスの最大長を超えるディレクトリパスに DVD インストールイメージをコピーしないでください。

### ▶ ダウンロードしたファイルの確認：

アドビの Web サイトからインストーラをダウンロードした場合は、MD5 チェックサムを使用してインストーラファイルの整合性を検証してください。ダウンロードファイルの MD5 チェックサム値を計算し、アドビのダウンロード Web ページで公開されたチェックサム値と比較するには、WinMD5 などのツールを使用します。

### ▶ ダウンロードしたアーカイブファイルの展開：

アドビ Web サイトから ESD をダウンロードした場合、`[appserver]_DVD.zip` (Windows) アーカイブファイル全体をローカルコンピュータに展開します。

**注意：**元の ESD ファイルのディレクトリ階層は変更しないようにしてください。

## 3.2 アップグレードの例外

LiveCycle ES2 にアップグレードするときのインストールプロセスと設定プロセスで発生する例外を次の一覧に示します。これらの例外は問題が発生したことを示すものではないため、アップグレードは正常終了できます。LiveCycle Configuration Manager を正常終了し、アプリケーションサーバーを再起動すると、これらの例外は発生しなくなります。

- `no setup for com.adobe.edc.server.spi.storage.entity.PrincipalEntity`
- `javax.naming.NameNotFoundException: JobManagerBeanLocal not bound`
- `com.adobe.pof.schema.AttributeNotFoundException`
- `no setup for com.adobe.edc.server.spi.storage.entity.LicenseEntity`
- `java.lang.NoSuchMethodError:`  
`com.adobe.idp.event.util.EventDBHelper.getNewAsynchEvents() [Lcom/adobe/idp/event/boi/Event`
- `com.adobe.idp.dsc.registry.ServiceNotFoundException: Service:`  
`HTTPDocumentAuthenticationService not found`
- `com.adobe.idp.dsc.registry.service.DuplicateServiceConfigurationException:`  
`Service Configuration: DocumentManagementService already exists`

- `java.lang.ClassNotFoundException: http-0.0.0.0-8080-4Class name com.adobe.idp.taskmanager.dsc.userservice.UserServiceImpl from package com.adobe.idp.taskmanager.dsc.userservice not found.`
- `com.adobe.idp.dsc.InvalidStateException: Service: PDFMMPdfFactoryEncryption is not in a RUNNING state`

### 3.3 LiveCycle ES2 のインストール

LiveCycle ES2 のデフォルトのインストール先ディレクトリは C:\Adobe\Adobe LiveCycle ES2 です。LiveCycle ES2 のインストール完了後、LiveCycle Configuration Manager を実行して、LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 へのアップグレードを実行します。

LiveCycle ES2 をインストールする前に、次の節の内容を確認してください。

- [「システムの前提条件」\(12 ページ\)](#)
- [「LiveCycle ES2 のインストール」\(22 ページ\)](#)

#### ▶ 自動オプションを使用して LiveCycle ES2 をインストールするには：

1. 次のいずれかを実行します。
  - ダウンロードサイトから、ファイルシステムに JBoss\_DVD.zip ファイル (LiveCycle ES2 Electronic Software Download または ESD ファイル) をダウンロードし、全体を展開します。JBoss\_DVD.zip ファイルのディレクトリ階層は変更せずに使用します。
  - ZIP ファイルを抽出したら、次のいずれかの方法を使用してインストーラを起動します。
    - `lifecycle_server` フォルダに移動し、**run\_windows\_installer.bat** ファイルをダブルクリックします。適切な LiveCycle ES2 インストーラが自動的に判断され、実行されます。
    - (32 ビットシステムの場合) `¥lifecycle_server¥9.0¥Disk1¥InstData¥Windows¥VM` フォルダの **install.exe** ファイルをダブルクリックします。
    - (64 ビットシステムの場合) `¥lifecycle_server¥9.0¥Disk1¥InstData¥Windows_64bit¥VM` フォルダの **install.exe** ファイルをダブルクリックします。
  - JBoss DVD から `lifecycle_server` フォルダに移動します。次のいずれかの方法でインストーラを起動します。
    - `lifecycle_server` ディレクトリに移動し、**run\_windows\_installer.bat** ファイルをダブルクリックします。適切な LiveCycle ES2 インストーラが自動的に判断され、実行されます。
    - (32 ビットシステムの場合) `¥lifecycle_server¥9.0¥Disk1¥InstData¥Windows¥VM` フォルダの **install.exe** ファイルをダブルクリックします。
    - (64 ビットシステムの場合) `¥lifecycle_server¥9.0¥Disk1¥InstData¥Windows_64bit¥VM` フォルダの **install.exe** ファイルをダブルクリックします。
2. 指示があったら、インストールで使用する言語を選択して、「OK」をクリックします。
3. ようこそ画面で「次へ」をクリックします。
4. 既存のデータベースを使用して既存の LiveCycle ES (8.x) 環境をアップグレードするか、LiveCycle ES2 の新規インストールを実行するかを選択し、「次へ」をクリックします。

デフォルト以外のディレクトリを使用して LiveCycle ES (8.x) 環境をインストールした場合、または LiveCycle ES (8.x) の複数のインスタンスをインストールしている場合、「参照」をクリックしてインストールディレクトリを指定します。

LiveCycle ES (8.x) がインストールされている同一マシンに LiveCycle ES2 をインストールするときに、「ポートは使用中です」エラーが表示される場合、無視しても問題ありません。「OK」をクリックして続行します。

**警告：** 前のバージョンの LiveCycle をインストールしたディレクトリとは異なるディレクトリを選択すると、インストールパスエラーが表示されます。

5. **(Windows Server 2003 上の PDF Generator ES2 および PDF Generator 3D ES2 のみ)** 管理者アカウントの認証情報画面で、「はい、PDF Generator ES2 のネイティブアプリケーションサポートを有効にします」を選択し、ユーザー名とパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

このネイティブアプリケーションサポート機能では、Microsoft Word から PDF への変換など、ネイティブアプリケーションを変換できます。ただし、PDF Generator ES2 および PDF Generator 3D ES2 をインストールしたサーバーと同じサーバーにこれらのネイティブアプリケーションをインストールする必要があります。

**注意：** PDF Generator 3D ES2 で 3D ファイルを PDF に変換するためには、ネイティブアプリケーションに対するサポートが必要です。Windows のネイティブアプリケーションに対するサポートを設定するには、Adobe Acrobat® バージョン 9.2 が必要です。Acrobat 9.2 のインストールについて詳しくは、[「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用の Acrobat のインストール」\(19 ページ\)](#) を参照してください。

**注意：** ユーザーのパスワードに \$ 文字を 2 文字続けて (dollar\$\$ など) 含めることはできません。これは、インストールウィザードが「無効な資格情報」のエラーを返すためです。

**警告：** 管理者名とパスワードを正しく入力しないと、LiveCycle ES2 は動作しません。[「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 用の Acrobat のインストール」\(19 ページ\)](#) で使用したものと同一管理者アカウントを使用してください。この管理者アカウントは、システムに Microsoft Office をインストールしたときに使用したものと同一アカウントである必要があります。このユーザーが対象のコンピュータのローカルアカウントでない場合は、Windows マシン名のプレフィックスを含める必要があります。Windows Server の localhost または IP アドレスは使用しないでください。

6. Adobe LiveCycle ES2 サーバーの使用許諾契約書を読み、同意する場合は「同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. MySQL 使用許諾契約書を読み、同意する場合は「同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。
8. JBoss Application Server 使用許諾契約書を読み、同意する場合は「同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。
9. インストール前の概要を確認して、「インストール」をクリックします。インストールプログラムによりインストールの進行状況が表示されます。このプロセスは、完了するまでに数分かかる場合があります。
10. リリースノートを確認して「次へ」をクリックします。
11. インストール後の概要情報を確認して、次のいずれかのオプションを選択します。
  - サービスパックアップデートが必要ない場合は、「LiveCycle Configuration Manager を起動します」が選択されていることを確認し、「完了」をクリックします。
  - サービスパックアップデートが必要な場合、または Connector for EMC Documentum、Connector for IBM FileNet、あるいは LiveCycle Content Manager をインストールしている場合は、このオプションの選択を解除し、「完了」を選択して以下の節を続行してから、LiveCycle Configuration Manager を実行します。

- (9.5 の新機能) LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストールを予定している場合は、最初に LiveCycle ES2 Service Pack 2 以降を適用してから、LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator をインストールする必要があります。その場合、このオプションの選択を解除し、「完了」をクリックして『[LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストールおよびデプロイ](#)』の手順を続行してから、LiveCycle Configuration Manager を実行します。

**注意：**「LiveCycle Configuration Manager を起動します」の選択を解除し、インストーラを終了すると、`[LiveCycleES2 root]¥configurationManager¥bin` にある `ConfigurationManager.bat` ファイルを使用して、LiveCycle Configuration Manager を実行できます。

## 3.4 サービスパックのインストール

LiveCycle Configuration Manager を使用して設定を実行する前に、最新の LiveCycle ES2 サービスパックを適用します。これらのアップデートは [LiveCycle テクニカルサポート](#) で入手できます。

## 3.5 アップグレードのための Connectors for ECM の準備

LiveCycle ES (8.x) から、LiveCycle ES2 Connector for EMC Documentum、LiveCycle ES2 Connector for IBM FileNet または LiveCycle ES2 Connector for IBM Content Manager にアップグレードする場合、LiveCycle ES2 をインストールしてから、LiveCycle Configuration Manager を起動してアップグレードプロセスを完了するまでの間に、アプリケーションサーバーのシステムプロパティを設定する必要があります。

### ▶ アップグレードのための Connectors for ECM の準備：

**注意：**新しいコンピュータでアップグレードを実行しない場合は、手順 2 に進みます。

1. **(新しいコンピュータへのアウトオブブレースアップグレードのみ)** 新しいアプリケーションサーバーをホストする LiveCycle ES2 サーバーに ECM リポジトリのクライアントをインストールします。
2. アップグレードを開始する前に、新しいアプリケーションサーバー上の Connectors for ECM に関連するすべての設定 (LiveCycle 管理コンソールの設定を除く) を行います。『[LiveCycle ES2 のインストールおよびデプロイ \(JBoss 版\)](#)』ガイドの EMC 製品のデプロイメント完了後の章で、「Connector ... の設定」の節を参照してください。
3. LiveCycle ES (8.x) の `[appserver root]/bin` ディレクトリに移動し、ターゲットサーバーの適切なディレクトリに `adobe-component-ext.properties` ファイルをコピーします。
4. **(バージョン 8.0 からのアップグレードのみ)** `adobe-component-ext.properties` ファイルをテキストエディタで開きます。
5. **(バージョン 8.0 からのアップグレードのみ)** システムプロパティ `[component id]_[component version].ext=[JAR files and/or folders]` をコピーしてファイル内に貼り付けるか、または新しいシステムプロパティとして追加します。
6. **(バージョン 8.0 からのアップグレードのみ)** 新しいシステムプロパティから `[component version]` を削除し、`[component id].ext=[JAR files and/or folders]` として行が表示されるようにします。
7. 新しい行が改行で終わっていることを確認し、ファイルを保存します。
8. アプリケーションサーバーを再起動します。

LiveCycle Configuration Manager の実行を続行して、LiveCycle ES2 にアップグレードできるようになりました ([「次の手順」 \(33 ページ\)](#) を参照)。

**警告：** LiveCycle ES Connector for EMC Documentum または Connector for IBM FileNet の場合、デフォルトのリポジトリを LiveCycle ES ネイティブリポジトリプロバイダに設定する必要があります。このように設定しないと、アップグレードのデプロイメントが失敗します。いずれかのコネクタのデフォルトリポジトリとして ECM リポジトリプロバイダを設定した場合、LiveCycle ES (8.x) LiveCycle 管理コンソールを開き、サービス / LiveCycle ES [コネクタの種類] / 環境設定を選択します。「LiveCycle ES Repository Provider」オプションを選択し、「保存」をクリックします。

## 3.6 LiveCycle ES (8.x) から LiveCycle ES2 へのアップグレード

ここまでの手順で LiveCycle ES (8.x) が実行されているコンピュータに LiveCycle ES2 がインストールされ、アップグレード設定を開始する準備が整いました。LiveCycle Configuration Manager は、アップグレードに必要なタスクを実行します。

LiveCycle Configuration Manager でアップグレードプロセスが完了すると、LiveCycle ES2 がデプロイされ、起動されます。

**ヒント：** LiveCycle Configuration Manager で **F1** キーを押すと、表示されている画面のヘルプ情報が表示されます。

### ► LiveCycle ES2 を設定するには：

1. LiveCycle ES2 のインストールから続けて作業をしている場合は、手順 3 に進みます。それ以外の場合は、[LiveCycleES2 root]¥configurationManager¥bin フォルダに移動して ConfigurationManager.bat を実行します。
2. プロンプトが表示されたら、LiveCycle Configuration Manager で使用する言語を選択して、「OK」をクリックします。
3. 既存の設定データを使用するように求められた場合は、「OK」をクリックします。
4. ようこそ画面で「次へ」をクリックします。
5. アップグレードタスクの選択画面で、既存のバージョンの LiveCycle ES (8.x) について適切なオプションを選択し、「次へ」をクリックします。

**注意：**「LiveCycle 7.x 互換レイヤーをインストール」オプションは、すべてのインストールシナリオおよびアップグレードシナリオに使用できます。LiveCycle 7.x で開発したクライアントアプリケーションを使用する予定の開発システムに LiveCycle ES2 をインストールする場合、このオプションを選択します。

6. モジュールの選択画面で、ライセンスされ、デプロイする予定の LiveCycle ES2 モジュールが選択されていることを確認して、「次へ」をクリックします。

**注意：**ライセンスされているすべてのモジュールを同時にデプロイする必要はありません。追加のモジュールをデプロイする場合は、後で LiveCycle Configuration Manager を実行できます。

**警告：** LiveCycle ES (8.x) 環境に含まれる場合でも、Adobe Business Activity Monitoring ES2 バージョン 9.0.0.0 は選択しないでください。[「Business Activity Monitoring ES2 のアップグレードおよびデプロイ」 \(32 ページ\)](#) を参照してください。

7. **(LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ)** LiveCycle 7.x 互換画面で、互換レイヤーをマージしない LiveCycle 7.x 製品の選択をすべて解除し、「次へ」をクリックします。

8. タスク選択画面で、使用可能なタスクがすべて選択されていることを確認して、「次へ」をクリックします。

**注意：**「アプリケーションサーバーを設定」と「アプリケーションサーバーの設定を検証」の各タスクは、JBoss 自動オプションでは選択できません。JBoss 自動オプションでこれらのタスクがサポートされていないのは、アプリケーションサーバーが既に LiveCycle ES2 用に設定されているからです。
9. アップグレード前のステップ画面またはアップグレード前のステップ (続き) 画面で要件を確認し、ご使用の環境に関連するすべてのタスクを実行して、「次へ」をクリックします。
10. LiveCycle ES を停止画面の「LiveCycle ES を停止」 ボタンをクリックして LiveCycle ES (8.x) JBoss サービスを停止し、「次へ」をクリックします。
11. グローバルドキュメント保存用 (GDS) ディレクトリと他の LiveCycle ES コンテンツを移行します画面で、「内容を移行」をクリックして、既存の GDS ディレクトリの内容を新しい LiveCycle ES2 のディレクトリにコピーします。完了したら、「次へ」をクリックします。
12. LiveCycle ES (8.x) のインストール後にカスタムデータソースを作成した場合は、カスタムデータソースの移行画面で「データソースの読み込み」 オプションを選択し、「開始」をクリックしてデータソースを読み込みます。完了したら、「次へ」をクリックします。

カスタムデータソースがない場合は、このオプションを選択せずに、「次へ」をクリックします。
13. **(LiveCycle ES (8.x) データソースを読み込む場合のみ)** カスタムデータソースの移行 (継続) 画面で、移行するデータソースを選択し (または選択解除)、「開始」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。

**注意：** データソースの移行をスキップするには、「開始」をクリックせずに「次へ」をクリックします。後で LiveCycle Configuration Manager を実行して、以上の手順を実行できます。
14. **(LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ)** LiveCycle ES ファイルを読み込み画面で、LiveCycle ES (8.x) に関連付けられたデプロイ可能なアーカイブファイルのパスを指定します。必要な情報を指定した後、「次へ」をクリックします。

**注意：** これらのファイルには、適切にアップグレードするために新しい LiveCycle ES2 サーバーへ移行する必要がある重要な設定データが含まれます。
15. **(LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ)** LiveCycle 7.x コンフィグレーションデータを抽出画面で、「開始」をクリックして LiveCycle 7.x EAR ファイルのデータを抽出します。プロセスが完了したら、「次へ」をクリックします。

**注意：** この画面は、LiveCycle 7.x 製品に抽出可能なデータがある場合にのみ表示されます。
16. LiveCycle ES2 を設定 (1/5) 画面で、「設定」をクリックします。EAR ファイルの設定が完了したら、「次へ」をクリックします。設定に含まれているモジュールの数によっては、このプロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。「進行状況ログを表示」をクリックすると、EAR ファイル設定のステータスが表示されます。
17. **(LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ)** LiveCycle 7.x 互換を適用画面で、「開始」をクリックして LiveCycle ES2 EAR ファイルに互換レイヤーを追加し、「次へ」をクリックして次の操作に進みます。
18. LiveCycle ES2 を設定 (2/5) 画面で、LiveCycle ES2 がフォントへのアクセスや処理中のジョブに関連する一時データの格納に使用するディレクトリを設定し、「次へ」をクリックします。

**ヒント：** この画面の値のいずれかを変更する必要がある場合にのみ、設定を編集します。

  - (オプション)「Adobe サーバーフォントディレクトリ」のデフォルトの場所を変更するには、パスを入力するか、ディレクトリを参照します。

- 「カスタマーフォントディレクトリ」ボックスの値をそのまま使用します。カスタマーフォントディレクトリの場所を指定していない場合、このボックスは空で表示され、カスタマーフォントの新しい場所を指定するよう選択できます (空のボックスをそのまま指定すると、フォントディレクトリのデフォルトの場所が指定されます)。

**注意：** アドビ システムズ社以外が提供しているフォントを使用するユーザーの権利は、それらのフォントを所有する会社が提供する使用許諾契約書に拘束されるもので、アドビソフトウェアを使用するための使用許諾契約書は適用されません。アドビ システムズ社以外が提供しているフォントをアドビソフトウェアで使用する前に、適用される、アドビ システムズ社以外の使用許諾契約書すべてに準拠していることを確認してください。特に、サーバー環境でフォントを使用する際は注意が必要です。

- (オプション) 「システムフォントディレクトリ」のデフォルトの場所を変更するには、パスを入力するか、ディレクトリを参照します。
- (オプション) FIPS を有効にするには、「FIPS を有効にする」を選択します。このオプションは、連邦情報処理規格 (FIPS) を適用する場合にのみ選択してください。

**注意：** この画面でシステムフォントディレクトリまたは「FIPS を有効にする」の値を変更しても、アップグレードプロセス中は設定されません。設定が完了したら、LiveCycle 管理コンソールでシステムフォントディレクトリを手動で更新し、FIPS オプションを有効にする必要があります。 [LiveCycle ES2 管理ヘルプ](#) の「コア設定」を参照してください。

19. LiveCycle ES2 の設定 (3/5) 画面で、「一時ディレクトリの場所」をデフォルト値のままにするか、パスを入力するか、パスを参照します。「次へ」をクリックして、続行します。
20. LiveCycle ES2 の設定 (4/5) 画面で、「グローバルドキュメント保存場所のディレクトリパス」をデフォルト値のままにするか、「参照」をクリックして完全修飾パスを指定します。GDS ルートディレクトリの保存場所は、ディレクトリのバックアッププロセスで指定しています ([「LiveCycle ES \(8.x\) データファイルのバックアップ」\(16 ページ\)](#) を参照)。LiveCycle ES (8.x) でデフォルトの GDS ディレクトリを使用しなかった場合、LiveCycle ES2 のディレクトリを指定します。

**注意：** LiveCycle ES (8.x) GDS ディレクトリがデフォルトの場所にあり、手順 11 で GDS のコンテンツを LiveCycle ES2 のインストールに移行した場合、事前設定された値は変更しないでください。

21. 永続的なドキュメントストレージを設定 (5/5) 画面で、「GDS を使用」または「データベースを使用」を選択します。
22. 「設定」をクリックして永続的なドキュメントストレージ方法を設定し、プロセスが完了したら、「次へ」をクリックします。
23. (**LiveCycle Content Services ES2 のみ**) LiveCycle Content Services ES2 設定画面で、Content Services ES2 で使用するパラメータを設定します。

**デプロイの種類：** 自動インストールのためのシングルサーバーを選択します。

**コンテンツ保存場所のルートディレクトリ：** Content Services ES2 で使用するルートディレクトリ。

**CIFS を有効にする：** このオプションを選択すると、ネットワーク接続された Content Services ES2 空間へのマッピングが可能になります。

**注意：** コンテンツ保存場所のルートディレクトリには、LiveCycle ES (8.x) のコンテンツ保存場所のルートディレクトリか、LiveCycle ES (8.x) のコンテンツ保存場所のルートディレクトリのコンテンツをコピーした新規作成のディレクトリを指定します。

24. (**LiveCycle Content Services ES2 のみ**) 「設定」をクリックして Content Services ES2 を設定します。完了したら、「次へ」をクリックします。

25. **(LiveCycle Content Services ES2 - CIFS オプションのみ)** LiveCycle Content Services ES2 CIFS 設定画面で、Content Services ES2 CIFS に必要なパラメータを設定します。

**CIFS サーバー名:** Content Services ES2 リポジトリにアクセスできる名前を指定します。LiveCycle Configuration Manager のデフォルトでは、LiveCycle ES2 サーバーに「a」を付けたサーバー名が設定されます。例えば、LiveCycle ES2 のサーバー名が `lcserver` の場合、`lcservera` という CIFS サーバー名が設定されます。指定する CIFS サーバー名は、ネットワーク内で一意である必要があります。

**CIFS サーバー実装を選択:** サーバーでサポートされている、次のいずれかの CIFS 実装の種類を選択します。

**Windows ネイティブ (DLL ベース):** 「参照」をクリックし、LiveCycle ES2 LiveCycle Configuration Manager が DLL ファイルをコピーする先のパス (通常は `C:\Windows\system32`) を選択します。

**JAVA (ソケットベース):** CIFS サーバーに割り当てられている代替 IP アドレスを指定し、ローカルドメインでのサーバー名の解決方法を指定します。例えば、プライマリ IP が `10.40.68.142` の場合、代替 IP として `10.40.68.143` を割り当てます。この IP はネットワーク上の他のコンピュータに割り当てないでください。

**WINS サーバーまたはブロードキャストを使用してローカルドメインを解決してください:** ローカルドメインの解決に使用する方法を選択します。

**ブロードキャスト:** ローカルドメインのネットワークセグメントのブロードキャストアドレス (サブネットマスク) を指定します。例えば、`10.40.91.255` と指定します。ブロードキャストモードでは、CIFS サーバーとクライアントは同じサブネットに属する必要があります。

**WINS サーバー:** プライマリおよびセカンダリ WINS サーバーの IP アドレスを指定します。例えば、`10.40.4.248` と指定します。WINS サーバーを選択する場合、クライアントはローカルドメイン内のどのサブネットでも使用できます。

26. **(LiveCycle Content Services ES2 - CIFS オプションのみ)** 「設定」をクリックして Content Services ES2 を設定します。完了したら、「次へ」をクリックします。
27. **(LiveCycle Content Services ES2 のみ)** LiveCycle Content Services ES2 モジュール設定画面で、LiveCycle Content Services ES2 で設定する AMPS を選択します。F1 を選択すると、このトピックに関するヘルプが表示されます。
28. **(LiveCycle Content Services ES2 のみ)** 「設定」をクリックして Content Services ES2 モジュールを設定します。完了したら、「次へ」をクリックします。
29. LiveCycle ES2 の概要を設定画面で、「次へ」をクリックします。
30. **(「SSL を設定」を選択した場合のみ)** 自動オプションの JBoss SSL を設定画面で、必要な値をすべて入力して「JBoss SSL を設定」をクリックするか、「設定をスキップ」オプションを選択して、「次へ」をクリックします。
31. **(Forms ES2、Output ES2 および PDF Generator ES2 のみ)** 「IVS EAR をデプロイメントセットに含めます」オプションを選択して、3 つのサービス固有のサンプルアプリケーションをインストールします。
- 例えば、Forms IVS は、Forms ES2 が適切にデプロイされ、実行されていることを検証できるサンプルアプリケーションです。
- 注意:** IVS EAR ファイルは実稼働環境にデプロイしないでください。
32. **(PDF Generator ES2 のみ)** Acrobat を LiveCycle PDF Generator ES2 に合わせて設定画面で、「設定」をクリックして設定スクリプトを実行します。完了したら、「次へ」をクリックします。
33. LiveCycle ES2 EAR をデプロイ画面で、JBoss にデプロイする EAR ファイルを選択し、「デプロイ」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。

34. LiveCycle ES2 データベースの初期化画面で、ホストとポートの情報を確認して、「初期化」をクリックします。データベースの初期化タスクによって、データベースにテーブルが作成され、デフォルトのデータがテーブルに追加されて、データベースに基本的なロールが作成されます。初期化が正常に完了したら、ダイアログの「OK」をクリックして JBoss サーバーを手動で再起動し、「次へ」をクリックします。

**注意：** この手順はスキップしないでください。初期化しても従来のデータは破損しません。

35. LiveCycle ES2 サーバー情報画面で、管理者のログイン名とパスワードを入力し、「サーバー接続を検証」をクリックします。検証が完了したら、「次へ」をクリックします。

**注意：** この画面に表示されるサーバー情報はデプロイメントの既定値です。サーバー接続の検証は、デプロイメントや検証でエラーが発生した場合に、トラブルシューティングの対象を絞り込むのに役立ちます。接続テストが正常に終了しても以降の段階でデプロイメントや検証のエラーが発生する場合は、接続の問題をトラブルシューティングの対象から除外できます。

36. **(Central Migration サービスのみ)** Central Pro または Web Output Pak で LiveCycle ES2 を設定するライセンスがある場合、「Central Migration Bridge Service をデプロイメントに含める」を選択し、「次へ」をクリックします。
37. LiveCycle コンポーネントのデプロイメント画面で、「デプロイ」をクリックします。今回デプロイされるコンポーネントは、サービスのデプロイ、統合および実行を目的として LiveCycle ES2 サービスコンテナにプラグインされている Java アーカイブファイルです。デプロイメントが正常に完了したら、「次へ」をクリックします。
38. LiveCycle コンポーネントのデプロイメントの検証画面で、「検証」をクリックします。LiveCycle Configuration Manager によって、LiveCycle ES2 サーバーでデプロイおよび実行される Java アーカイブファイルが検証されます。検証が正常に完了したら、「次へ」をクリックします。
39. LiveCycle サーバー JNDI 情報画面で、JNDI サーバーのホスト名とポート番号を指定し、「接続を検証」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
40. ECM フォームテンプレートを移行画面で、次のオプションのいずれかを選択します。
- 「フォームテンプレートの読み込みをスキップ」オプションを選択して既存のフォームテンプレートの読み込みをスキップし、「次へ」をクリックします。
  - 「フォームテンプレートの読み込みをスキップ」オプションの選択を解除し、「開始」をクリックして既存のフォームテンプレートのすべてを読み込み、「次へ」をクリックします。
41. (「フォームテンプレートの読み込みをスキップ」の選択を解除した場合のみ) ECM フォームテンプレートを移行 (続き) 画面で、移行対象の LiveCycle ES (8.x) フォームテンプレートを選択または選択解除し、既存のカスタムフォームテンプレートが保存されている任意のディレクトリのパスを追加または削除します。完了したら、「次へ」をクリックします。
42. LiveCycle ES2 の運用に必要なデータを移行画面で、「開始」をクリックし、LiveCycle ES (8.x) 環境のデータを移行します。完了したら、「次へ」をクリックします。
- この手順では、フォーム、フォームデータ、プロセス、環境設定、ファイルタイプ設定、ジョブオプション、セキュリティ設定、監視フォルダおよび電子メールジョブソース (アップグレードする製品による)、カスタムフォントおよび GDS ディレクトリ内のドキュメントのコピーが行われます。
- 警告：** **(LiveCycle ES2 Connector for IBM FileNet のみ)** LiveCycle ES バージョン 8.0 からアップグレードした場合、Connector for IBM FileNet Process Engine サービスを開始しようとしたときに、移行ログにプラグインの実行失敗エラーが表示されます。このサービスはバージョン 8.0 では使用できませんでした。[「デプロイメント完了後の作業」\(34 ページ\)](#) のタスクを実行すると、手動で設定できます。
43. **(LiveCycle 7.x 互換レイヤーのみ)** 7.x 互換 DSC をデプロイ画面で、「開始」をクリックしてコンポーネントファイルをデプロイします。完了したら、「次へ」をクリックします。
44. アプリケーションサーバーを再起動します。

45. LiveCycle コンポーネントを設定画面で、設定する LiveCycle ES2 モジュールを選択し、「次へ」をクリックします。次に表示される画面は、この画面で選択した内容によって変わります。

**注意：** LiveCycle ES (8.x) からアップグレードする場合、この画面で設定の Connectors for ECM の選択をすべて解除します。

手順 46～49 はオプションです。アップグレードする場合ではなく、初めてコネクタをインストールする場合にのみ適用できます。

46. (「**Connector for EMC Documentum を設定**」のみ) この画面で、次のタスクのいずれかを実行します。

- 後で EMC Documentum を手動設定するには、「Connector for EMC Documentum コンテンツサーバーを設定します」オプションの選択を解除し、「次へ」をクリックします。
- オプションを選択し、適切なバージョンとディレクトリパスを入力し、「検証」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックし、次の画面でタスクを完了します。
  - EMC Documentum Content Server の設定画面で、必要な値を入力し、「次へ」をクリックします。
  - Adobe Connector for EMC Documentum を設定画面で、「Documentum Connector を設定」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。

47. (「**Connector for IBM Content Manager を設定**」のみ) この画面で、次のタスクを実行します。

- 後で IBM Content Manager を手動設定するには、「Connector for IBM Content Manager を設定」オプションの選択を解除し、「次へ」をクリックします。
- オプションを選択し、適切なディレクトリパスを入力し、「検証」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックし、次の画面でタスクを完了します。
  - IBM Content Manager サーバーの設定画面で、必要な値を入力し、「次へ」をクリックします。
  - Adobe Connector for IBM Content Manager を設定画面で「IBM Content Manager Connector を設定」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
  - LiveCycle Connector for IBM Content Manager に必要な手動設定画面で、一覧の手動による手順を確認および実行し、「次へ」をクリックします。

48. (「**Connector for IBM FileNet を設定**」のみ) この画面で、次のタスクを実行します。

- 後で IBM FileNet を手動設定するには、「Connector for IBM FileNet Content Manager を設定」オプションの選択を解除し、「次へ」をクリックします。
- オプションを選択し、適切なバージョンとディレクトリパスを入力し、「検証」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックし、次の画面の操作を完了します。
  - IBM FileNet Content Server の設定画面で、必要な値を入力し、「次へ」をクリックします。
  - Connector for IBM FileNet Process Engine を設定画面で、適切なバージョン (有効な場合) とディレクトリパスを入力し、「検証」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
  - IBM FileNet Process Engine サーバーの設定画面で、必要な値を入力し、「次へ」をクリックします。
  - Adobe Connector for IBM FileNet を設定画面で、「FileNet Connector を設定」をクリックします。完了したら、「次へ」をクリックします。
  - LiveCycle Connector for IBM FileNet Content Manager に必要な手動設定画面で、一覧の手動による手順を確認および実行し、「次へ」をクリックします。

49. (「**Configure ECM Connectors**」のみ) 設定を確認画面で、次のいずれかを実行します。
- 初めてコネクタを設定する場合、または前の画面で設定のいずれかを変更した場合、「アプリケーションサーバーを再起動します」オプションを選択したままにし、「設定を検証」をクリックします。検証に成功したら、「次へ」をクリックします。
  - LiveCycle ES2 の設定後にコネクタを設定する場合、オプションの選択を解除し、「設定を検証」をクリックします。検証に成功したら、「次へ」をクリックします。
50. (「**LiveCycle PDF Generator ES2 を設定**」のみ) LiveCycle サーバマシン管理者のユーザー資格情報を管理画面で、サーバコンピュータの管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。「追加」をクリックします。

Windows Server 2008 の場合は、管理ユーザーを 1 人以上追加する必要があります。Windows Server 2003 の場合は、ユーザーの追加は必須ではありません。

**注意：** Windows Server 2008 では、ユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。UAC を無効にするには、コントロールパネル/ユーザーアカウント/ユーザーアカウント制御の有効化または無効化を順にクリックし、「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」の選択を解除します。「OK」をクリックします。システムを再起動すると、変更が有効になります。

51. (LiveCycle PDF Generator ES2 に関して LiveCycle Configuration Manager がサーバマシンのローカルで実行されている場合のみ) LiveCycle PDF Generator System Readiness Test 画面で、「開始」をクリックし、システムが PDF Generator ES2 に合わせて適切に設定されているかどうかを検証します。
52. System Readiness Tool レポートを確認し、「次へ」をクリックします。
53. (LiveCycle Reader Extensions ES のみ) デフォルトの Reader Extensions 証明書画面の情報を確認し、「次へ」をクリックします。

**注意：** LiveCycle ES (8.x) システムで秘密鍵証明書が設定されていない場合は、代わりに次の画面が表示されます。

54. (LiveCycle Reader Extensions ES2 のみ) この画面で、モジュールサービスをアクティブにする Reader Extensions ES2 秘密鍵証明書に関連付けられている以下の詳細を指定します。

**秘密鍵証明書ファイル：** Reader Extensions ES2 秘密鍵証明書のパスとファイル名 (.pfx または .p12 ファイルタイプ)。

**秘密鍵証明書のパスワード：** 秘密鍵証明書に関連付けられるパスワード。このパスワードは秘密鍵証明書ファイルと共に提供されています。

**秘密鍵証明書のユーザー定義の名前：** 設定時に LiveCycle Configuration Manager によって秘密鍵証明書に与えられる名前 (またはエイリアス)。任意の名前を使用できます。

この名前は、Reader Extensions ES2 Web インターフェイスに表示され、SDK 呼び出しを通じて秘密鍵証明書の参照に使用されるエイリアスでもあります。Reader Extensions ES2 秘密鍵証明書には任意の一意名を作成できます。

**ヒント：** ここで、「LiveCycle 管理コンソールを使用して後から設定」を選択すると、この手順をスキップできます。Reader Extensions ES2 の秘密鍵証明書は、デプロイメント完了後に LiveCycle 管理コンソールを使用して設定できます (LiveCycle 管理コンソールにログインしたら、設定/Trust Store の管理/ローカル秘密鍵証明書の順にクリックします)。

「設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。

55. (オプション) LiveCycle ES2 サンプルの読み込み画面で、次のいずれかを実行します。
- LiveCycle ES2 サンプルを読み込むには、「読み込み」をクリックして、「次へ」をクリックします。
  - この手順をスキップするには、「LiveCycle ES2 サンプルの読み込みをスキップ」を選択して「次へ」をクリックします。後日、LiveCycle Configuration Manager を再起動してサンプルの読み込みを選択することによって、サンプルを読み込むことができます。

**警告：** 次のいずれかに該当する場合は、LiveCycle ES2 サンプルを読み込まないでください。

- 実稼働システムに LiveCycle ES2 をデプロイする場合、サンプルを読み込むとデフォルトのパスワードでユーザーが作成されます。これにより、実稼働環境にセキュリティ上の問題が生じる可能性があります。

56. 読み込みが正常に完了したら、「次へ」をクリックします。

57. 概要ページで、「次へ」をクリックします。

58. 「次の手順」の情報を確認します。完了したら、「完了」をクリックして LiveCycle Configuration Manager を終了します。

**注意：** LiveCycle ES2 を設定したら、実際のソリューション実装に該当する設定後の作業を行う必要があります ([「デプロイメント完了後の作業」 \(34 ページ\)](#) を参照)。

59. SSL を設定した場合、JBoss を再起動して SSL 設定を有効にする必要があります。

## 3.7 Business Activity Monitoring ES2 のアップグレードおよびデプロイ

LiveCycle ES (8.x) ソリューションの一部として LiveCycle Business Activity Monitoring ES (BAM) をインストールした場合、LiveCycle ES2 で機能するように次のタスクを実行します。

**注意：** BAM のインストールには独自の JBoss インスタンスが必要です。このインスタンスは、LiveCycle ES2 の JBoss インスタンスとは別のコンピュータまたは同じコンピュータに配置できます。

### ▶ Business Activity Monitoring ES2 のインストールおよび設定：

1. BAM の部分的な自動インストールを実行します。『[LiveCycle ES2 の自動インストールおよびデプロイ](#)』を参照してください。
2. 次の手順で BAM の設定を変更します。
  - Web ブラウザを開き、`http://[hostname]:[port]/adminui` と入力して LiveCycle 管理コンソールにログインします。
  - サービス / LiveCycle Process Management ES2 / サーバー設定 / BAM の設定を選択します。
  - 使用している BAM サーバーに合わせて、「BAM ホスト」、「BAM ポート」、「LiveCycle サーバーホスト」および「LiveCycle サーバー SOAP ポート」の値を変更します。
  - 「ユーザー名」を「CognosNowAdmin」に変更し、「保存」をクリックします。
  - LiveCycle ES2 サーバーを再起動します。

### ▶ すべてのデータストリームの無効化と有効化：

1. Web ブラウザを開き、`http://[hostname]:[BAM port]/bam/workbench` と入力して BAM Workbench にログインします。
2. 「Workbench」タブの「Public Folders」をクリックし、「Data Stream AdobeEvent」を見つけ、「AdobeEvent」を選択します。「Activities」リストで「Disable」をクリックし、ポップアップダイアログの「Disable Dependencies」をクリックします。
3. 「AdobeEvent」を選択し、「Activities」リストの「Enable」をクリックし、ポップアップダイアログの「Enable All」をクリックします。
4. 他のすべてのデータストリームについて、手順 2 および 3 を繰り返します。

▶ 次の手順で LiveCycle ES (8.x) Business Activity Monitoring ES2 メタデータを読みます。

1. アップグレードを実行する前に、書き出した LiveCycle ES (8.x) Business Activity Monitoring ES2 メタデータの JAR ファイルの場所を特定します。『[LiveCycle ES2 へのアップグレードの準備](#)』ガイドの「Business Activity Monitoring ES2 メタデータの書き出しとバックアップ」を参照してください。
2. 「Administration Console」タブを開き、「Import/Export」をクリックします。
3. 「Import metadata from a JAR file (upload)」を選択し、「Browse」をクリックして、書き出したメタデータの JAR ファイルに移動します。
4. Import Mode / Do not overwrite を選択し、「OK」をクリックします。

LiveCycle ES (8.x) プロセスのデータが LiveCycle ES2 Business Activity Monitoring ES2 に表示されます。

5. 一部の LiveCycle ES (8.x) オブジェクトは LiveCycle ES2 で使用されなくなりました。これらのオブジェクトは、BAM Workbench には表示されません。

## 3.8 次の手順

LiveCycle Configuration Manager を使用して LiveCycle ES2 を設定およびデプロイした場合は、デプロイメント後のタスクを完了できます ([「デプロイメント完了後の作業」\(34 ページ\)](#) を参照)。

# 4

## デプロイメント完了後の作業

ここでは、インストール後のタスクについて詳しく説明します。また、アプリケーションサーバーに LiveCycle ES2 のモジュールとサービスをインストール、設定およびデプロイした後の使用方法について概要を説明します。

- [「JBoss サーバーからの JMS の削除」 \(34 ページ\)](#)
- [「JBoss サービスの再起動」 \(35 ページ\)](#)
- [「JBoss のステータスページの無効化」 \(35 ページ\)](#)
- [「正しい日付、時刻およびタイムゾーンの設定」 \(35 ページ\)](#)
- [「JBoss 用 SSL の手動による有効化」 \(35 ページ\)](#)
- [「LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストール」 \(37 ページ\)](#) (オプション)
- [「Workbench ES2 へのアップグレード」 \(37 ページ\)](#)
- [「モジュールの Web アプリケーションへのアクセス」 \(38 ページ\)](#)
- [「User Management へのアクセス」 \(41 ページ\)](#)
- [「平文テキストパスワードの暗号化」 \(41 ページ\)](#)
- [「MySQL データベースの管理」 \(41 ページ\)](#)
- [「Forms ES2 キャッシュのリセット」 \(42 ページ\)](#)
- [「LiveCycle ES2 の LDAP アクセス設定」 \(42 ページ\)](#)
- [「LiveCycle 7.x からアップグレードする場合の考慮事項」 \(43 ページ\)](#)
- [「HTML 電子署名の設定」 \(43 ページ\)](#)
- [「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 の設定」 \(44 ページ\)](#)
- [「LiveCycle ES2 Connectors for ECM の設定」 \(51 ページ\)](#)
- [「SharePoint クライアントアクセスの設定」 \(55 ページ\)](#)
- [「IPv6 モードでの CIFS の有効化」 \(56 ページ\)](#)
- [「アップグレード後の LiveCycle ES のアンインストール」 \(57 ページ\)](#)
- [「アップグレード後の作業ファイルの削除」 \(57 ページ\)](#)
- [「システムイメージバックアップの実行」 \(57 ページ\)](#)
- [「LiveCycle ES2 のアンインストール」 \(58 ページ\)](#)

### 4.1 JBoss サーバーからの JMS の削除

LiveCycle ES2 では、Java メッセージングの管理に JMS の設定を使用しなくなりました。LiveCycle ES2 が正常に動作することを確認したら、競合を回避するために、LiveCycle ES (8.x) インストールからすべての JMS 設定を削除する必要があります。

#### ▶ JBoss からの JMS の削除：

1. [LiveCycle8x\_root]¥jboss¥server¥all¥deploy¥jms¥adobe-service.xml を探し、エディタで開きます。
2. <server> エレメントからすべての <mbean> プロパティを削除します。
3. ファイルを保存して閉じます。

## 4.2 JBoss サービスの再起動

LiveCycle ES2 のインストールが完了したら、初期化状態にするために、JBoss サービスを再起動します。インストール後は、JBoss サービスが大量にメモリを使用する初期化状態になります。

## 4.3 JBoss のステータスページの無効化

情報開示に関する脆弱性の問題があるので、使用しているアプリケーションサーバーのバージョン用の次の手順に従って JBoss のステータスページへのアクセスを削除します。

### ▶ JBoss Application Server 4.2.1 のステータスページを無効にするには

1. [JBossES2 root]/server/lc\_turnkey/deploy/jbossweb.deployer/ROOT.war/WEB-INF に移動し、web.xml ファイルをエディタで開きます。

2. 以下のように `<servlet>` タグと `<servlet-mapping>` タグをコメントアウトします。

```
<!-- <servlet>
    <servlet-name>Status Servlet</servlet-name>
    <servlet-class>org.jboss.web.tomcat.service.StatusServlet
    </servlet-class>
</servlet>
<servlet-mapping>
    <servlet-name>Status Servlet</servlet-name>
    <url-pattern>/status</url-pattern>
</servlet-mapping> -->
```

3. ファイルを保存して閉じます。

## 4.4 正しい日付、時刻およびタイムゾーンの設定

LiveCycle ES2 環境に接続するすべてのサーバーで正しい日付、時刻およびタイムゾーンを設定することで、時間に依存するモジュール (LiveCycle Digital Signatures ES2 や LiveCycle Reader Extensions ES2 など) が正常に機能するようになります。例えば、未来の時間に作成された署名は、有効になりません。

同期を必要とするサーバーは、データベースサーバー、LDAP サーバー、HTTP サーバーおよび J2EE サーバーです。

## 4.5 JBoss 用 SSL の手動による有効化

自動インストール時、Secure Socket Layer (SSL) がデフォルトで無効の状態です。JBoss アプリケーションサーバーがセットアップされます。ドキュメントを保護するために、Rights Management と Adobe Acrobat を使用する場合は、JBoss 用 SSL を有効にします。SSL を有効にするには、VeriSign などの信頼できる認証局 (CA) から発行された署名入り証明書が必要です。ただし、自己署名証明書を生成および使用して、SSL を有効にすることもできます。

自動インストール時に JBoss 用 SSL を有効にする場合、次のように広範なタスクを実行する必要があります。

1. Java SDK に付属するキーツールユーティリティを使用してキーストアを作成します。
2. 証明書を生成するか、CA から発行された証明書を使用します。
3. キーストアと証明書のファイルを JBoss ルート設定フォルダ (C:\Adobe\Adobe LiveCycle ES2\jboss\server\lc\_turnkey\conf) にコピーします。
4. 証明書を [Adobe\_JAVA\_HOME]\lib\security\cacerts に読み込みます。

5. JBoss server.xml ファイルを編集し、SSL 構成の設定をコメント解除して証明書の参照属性を指定します。
6. 変更を適用するには、JBoss サーバーを再起動します。

## 4.5.1 JBoss 用 SSL の有効化

LiveCycle Configuration Manager を使用して JBoss 用 SSL を設定できます。このオプションをスキップした場合、この節の説明を参照して SSL を手動設定してください。

X.500 識別名は、キーストアと証明書を生成するときの識別子として使用されます。証明書の生成に使用するキーツールコマンドは、`keytool` オプションについて次のサブパーツをサポートしています。

- CN** : 証明書を生成するマシンの完全ホスト名。例えば、「machine.adobe.com」。
- OU** : 部や課など、小規模な組織単位の名前。例えば、「Purchase」。
- O** : 組織の名前。例えば、「Adobe Systems」。
- L** : 地方または市の名前。例えば、「San Jose」。
- S** : 州や都道府県の名前。例えば、「California」。
- C** : 2 文字の国コード。例えば、「US」。

### ▶ 自動インストール時に JBoss 用 SSL を有効にするには

1. [Adobe\_JAVA\_HOME]/bin に移動し、次のコマンドを入力してキーストアを作成します。  

```
keytool -genkey -dname "CN=Host Name, OU=Group Name, O=Company Name, L=City Name, S=State, C=Country Code" -alias "LC Cert" -keyalg rsa -keypass key_password -keystore keystorename.keystore
```

[Adobe\_JAVA\_HOME] は JDK のインストールディレクトリ名に置換し、太字のテキストは実際の環境に対応する値に置換します。「Host Name」は、アプリケーションサーバーの完全修飾ドメイン名です。
2. パスワードの入力を求められたら、`keystore_password` を入力します。  
**注意** : この手順の `keystore_password` には、手順 1 で入力したパスワード (`key_password`) と同じパスワードでも異なるパスワードでも入力できます。
3. 次のコマンドを入力して、`keystorename.keystore` ファイルを [appserver root]¥server¥lc\_turnkey¥conf ディレクトリにコピーします。  

```
copy keystorename.keystore [JBoss_ES2 root]/server/lc_turnkey/conf
```
4. 次のコマンドを入力して、証明書ファイルを書き出します。  

```
keytool -export -alias "LC Cert" -file LC_cert.cer -keystore [appserver root]¥server¥lc_turnkey¥conf¥keystorename.keystore
```
5. パスワードの入力を求められたら、`keystore_password` を入力します。
6. 次のコマンドを入力して、`LC_cert.cer` ファイルを [appserver root] の `conf` ディレクトリにコピーします。  

```
copy LC_cert.cer [appserver root]¥server¥lc_turnkey¥conf
```
7. 次のコマンドを入力して、証明書の内容を表示します。  

```
keytool -printcert -v -file [appserver root]¥server¥lc_turnkey¥conf¥LC_cert.cer
```
8. 必要に応じて、[Adobe\_JAVA\_HOME]¥lib¥security の `cacerts` ファイルへの書き込みアクセス権を指定します。`cacerts` ファイルを右クリックして「プロパティ」を選択し、「読み取り専用」属性の選択を解除します。

9. 次のコマンドを入力して、証明書ファイルを読み込みます。

```
keytool -import -alias "LC Cert" -file LC_cert.cer -keystore  
[Adobe_JAVA_HOME]¥lib¥security¥cacerts
```

10. パスワードに changeit と入力します。changeit は Java インストールでデフォルトのパスワードです。
11. 「Trust this certificate? [no]:」と表示されたら、yes と入力します。「Certificate was added to keystore」という確認メッセージが表示されます。
12. テキストエディタでファイル [JBossES2\_root]¥server¥lc\_turnkey¥deploy¥jboss-web.deployer¥server.xml を開きます。
13. server.xml ファイルの次の行をコメント解除します。

```
<!-- SSL/TLS Connector configuration using the admin dev1 guide keystore  
<Connector port="8443" address="{jboss.bind.address}" maxThreads="100"  
strategy="ms" maxHttpHeaderSize="8192" emptySessionPath="true"  
scheme="https" secure="true" clientAuth="false"  
keystoreFile="{jboss.server.home.dir}/conf/keystoreFile.keystore"  
keystorePass="keystorePass" sslProtocol = "TLS" />  
-->
```
14. server.xml の keystoreFile 属性に、作成したキーストアファイルのパスを指定します。server.xml の keystorePass 属性に、keystore\_password を指定します。
15. server.xml ファイルを保存します。
16. アプリケーションサーバーを再起動します。
  - Windows のコントロールパネルで、「管理ツール」をクリックして「サービス」をクリックします。
  - 「JBoss for Adobe LiveCycle ES2」を選択します。
  - 操作/停止を選択します。
  - サービスのステータスが停止になるまで待機します。
  - 操作/開始を選択します。

## 4.6 LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストール

### \*9.5 の新機能\*

LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストールを予定している場合は、最初に LiveCycle ES2 Service Pack 2 以降を適用してから、LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator をインストールする必要があります。ただし、LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストール後に LiveCycle Configuration Manager を再実行する必要がありますことに注意してください。

Solution Accelerator のインストールについて詳しくは、『[LiveCycle ES2.5 Solution Accelerator のインストールおよびデプロイ](#)』を参照してください。

## 4.7 Workbench ES2 へのアップグレード

LiveCycle ES2 サーバーのアップグレードが完了し、適切に動作していることを確認したら、LiveCycle ES2 アプリケーションの作成と変更を引き続き行うために、新しいバージョンの Workbench ES2 をインストールする必要があります。『[Installing Your Development Environment](#)』を参照してください。

## 4.8 LiveCycle 管理コンソールへのアクセス

LiveCycle 管理コンソールは、各種設定ページにアクセスするための Web ベースのポータルです。これらの設定ページでは、LiveCycle ES2 の動作を制御する実行時プロパティを設定できます。LiveCycle 管理コンソールにログインすると、User Management、監視フォルダおよび電子メールクライアントの設定、さらに他のサービスの管理設定オプションにアクセスできます。管理者が実稼働環境にサービスをデプロイするために使用するアプリケーションおよびサービスには、LiveCycle 管理コンソール内からアクセスします。

LiveCycle 管理コンソールにログインする場合のデフォルトのユーザー名とパスワードは、それぞれ「administrator」および「password」です。初回ログイン時に、User Management にアクセスして、LiveCycle ES2 の管理者アカウントのパスワードを変更できます（[「User Management へのアクセス」\(41 ページ\)](#) を参照）。LiveCycle ES (8.x) システムで設定したものと同一管理者アカウントとパスワードを使用します。

LiveCycle 管理コンソールにアクセスするには、デプロイ済みの LiveCycle ES2 がアプリケーションサーバー上で実行されている必要があります。

管理者の Web ページの使用方法について詳しくは、LiveCycle 管理コンソールのヘルプ（LiveCycle 管理コンソールホームページのヘルプメニューからアクセス）を参照してください。

### ▶ LiveCycle 管理コンソールにアクセスするには

1. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。  
http://localhost:8080/adminui（デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント）
2. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。  
**ユーザー名**： administrator  
**パスワード**： password
3. 「ログイン」をクリックします。
4. サービスのページにアクセスするには「サービス」を、コアシステム設定、User Management および Trust Store の管理のページにアクセスするには「設定」をクリックします。

### 4.8.1 デフォルトのパスワードの変更

LiveCycle ES2 では、インストール時に 1 つ以上のデフォルトのユーザーが作成されます。これらのユーザーのパスワードは製品資料に記載され、公開されています。セキュリティ要件に応じて、このデフォルトのパスワードを変更する必要があります。

LiveCycle ES2 管理者のユーザーパスワードは、デフォルトで「password」に設定されています。このパスワードは、LiveCycle 管理コンソール / User Management で変更する必要があります。

## 4.9 モジュールの Web アプリケーションへのアクセス

LiveCycle ES2 のデプロイ後には、次のモジュールに関連付けられた Web アプリケーションにアクセスできます。

- LiveCycle Reader Extensions ES2
- LiveCycle Workspace ES2
- LiveCycle Rights Management ES2
- LiveCycle Business Activity Monitoring ES2
- LiveCycle Content Services ES2

Reader Extensions ES2、Workspace ES2 および Rights Management ES2 の使用について詳しくは、各アプリケーションのヘルプを参照してください。

デフォルトの管理者権限を使用して Web アプリケーションにアクセスし、他のユーザーがログインし、アプリケーションを使用できるように、新規のユーザーとロールを作成します (User Management ヘルプを参照してください)。LiveCycle 管理コンソールヘルプまたは User Management ページでも使用できます)。

## 4.9.1 Reader Extensions ES2 へのアクセス

5. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`http://localhost:8080/ReaderExtensions` (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

6. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名:** `administrator`

**パスワード:** `password`

**注意:** デフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインするには、管理者またはスーパーユーザーの権限が必要です。他のユーザーが Reader Extensions ES2 にアクセスできるようにするには、User Management でユーザーアカウントを作成し、そのユーザーに Reader Extensions Web アプリケーションロールを付与する必要があります。

## 4.9.2 Workspace ES2 へのアクセス

7. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`http://localhost:8080/workspace` (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

8. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名:** `administrator`

**パスワード:** `password`

## 4.9.3 Rights Management ES2 へのアクセス

Rights Management ES2 にログインするには、LiveCycle Rights Management End User ロールが割り当てられている必要があります。

上級管理者を含む、新規および既存のどのユーザーにも、LiveCycle Rights Management エンドユーザーロールはデフォルトでは付与されていません。LiveCycle Rights Management End User ロールを持つユーザーアカウントを User Management で作成するか、または既存のユーザーにエンドユーザーロールを付与する必要があります。次に、作成したユーザーに関連付けられているログイン情報を使用して、Rights Management ES2 にログインします。

### ▶ Rights Management ES2 Web アプリケーションにアクセスするには

1. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`http://localhost:8080/edc/Login.do` (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

2. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名:** 管理者、または Rights Management ES2 End User ロールを持つ任意のユーザー。

**パスワード:** 上記で入力したユーザーアカウントのパスワード。

**注意:** 管理者以外のユーザー権限でログインできない場合、アプリケーションサーバーを再起動します。

ユーザーおよびロールの設定と Rights Management ES2 用の SSL の設定について詳しくは、[LiveCycle ES2 管理ヘルプ](#)を参照してください。

Rights Management ES2 のポリシーエントリにプリンシパルユーザーを追加しても、マイポリシーセットにドメインが含まれていないため、デフォルトではプリンシパルユーザーは表示されません。表示されるユーザーとグループを追加するために、Rights Management ES2 管理 Web アプリケーションでマイポリシー設定を変更して、ドメインを追加することができます。追加したドメイン内のすべてのユーザーが表示され、ユーザーポリシーに追加できます ([LiveCycle ES2 管理ヘルプ](#)を参照)。

## 4.9.4 Business Activity Monitoring ES2 へのアクセス

1. Internet Explorer を起動し、適切な URL を入力します。

- <http://localhost:8888/bam/login/dashboard.htm> (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)
- <http://localhost:8888/bam/login/workbench.htm> (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

2. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

ユーザー名 : *CognosNowAdmin*

パスワード : *manager*

### ▶ BAM ダッシュボードに入力するには

次の手順を実行して、LiveCycle ES2 プロセスデータを BAM に同期します。

1. BAM Workbench にログインします。
2. 「Workbench」タブをクリックし、「Public Folders」をクリックします。
3. 「Data Stream AdobeEvent」を探し、「AdobeEvent」を選択します。
4. 「Activities」リストで「Disable」をクリックし、ポップアップダイアログの「Disable Dependencies」をクリックします。
5. 「AdobeEvent」を選択し、「Activities」リストの「Enable」をクリックし、ポップアップダイアログの「Enable All」をクリックします。
6. 他のすべてのデータストリームについて手順 3 ~ 5 を繰り返します。

### ▶ BAM のバックアップと回復のために BAM 回復ログディレクトリをリセットするには

デフォルトで、JBoss 用の BAM の回復ログディレクトリは `../server/lc_turnkey/logs` に設定されています。BAM 回復ログディレクトリに使用する別のディレクトリを設定し、復元用に `DEFAULTRECOVERYLOGGER` ファイルをバックアップし忘れてもデータが失われないようにすることができます。

1. BAM Workbench にログインします。
2. 「Administration Console」タブで、「System Settings...」をクリックします。
3. 「Configure」リストから「Checkpoint Configuration」を選択します。
4. 「Recovery Log Directory」を探し、必要な変更を加えます。

## 4.9.5 Content Services ES2 へのアクセス

**注意：** LiveCycle ContentSpace ES2 Administrator または LiveCycle ContentSpace ES2 のロールを、この Web アプリケーションにログインする新しいユーザーに適用します。ユーザーがログインできるようにするには、User Management でユーザーを作成し、適切なロールを付与します。

5. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

- <http://localhost:8080/contentspace> (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

6. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名：** *administrator*

**パスワード：** *password*

## 4.10 User Management へのアクセス

User Management を使用すると、管理者はすべてのユーザーおよびグループのデータベースを管理できます。データベースを 1 つまたは複数のサードパーティのユーザーディレクトリと同期して、これらのデータベースからユーザーおよびグループを含めることができます。User Management では、Reader Extensions ES2、Workspace ES2、Rights Management ES2、LiveCycle Process Management ES2 および LiveCycle Forms ES2 を含む LiveCycle ES2 モジュールの認証およびユーザー管理を行います。

### ► User Management にアクセスするには

1. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

<http://localhost:8080/adminui> (デフォルトのポートを使用したローカルのデプロイメント)

2. 次のデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名：** *administrator*

**Password：** *password*

3. 設定 / User Management をクリックします。

**注意：** User Management でのユーザー設定について詳しくは、User Management ページの右上隅にある「User Management ヘルプ」をクリックしてください。

## 4.11 平文テキストパスワードの暗号化

データソースの設定に含まれる平文テキストパスワードを暗号化するには、<http://wiki.jboss.org> にアクセスし、EncryptingDataSourcePasswords について検索します。

## 4.12 MySQL データベースの管理

自動のインストールおよび設定では、MySQL のトランザクション対応のストレージエンジン (InnoDB) がサポートされています。これはつまり、すべてのドキュメントサービスが同じストレージエンジンで動作し、一貫したバージョンサポートを行う必要があるということです ([MySQL InnoDB Storage Engine](#) を参照)。

## 4.13 Forms ES2 キャッシュのリセット

Forms ES を含む LiveCycle ES (8.x) システムをアップグレードした後で、Forms ES2 キャッシュをリセットすることをお勧めします。これは、移行されたプロセスでフォームを生成する際に発生する可能性のある問題を回避するための操作です。

サービス/LiveCycle Forms ES2/フォームキャッシュコントロールの設定をクリックして、LiveCycle 管理コンソールの「キャッシュをリセット」ボタンを使用します。

## 4.14 LiveCycle ES2 の LDAP アクセス設定

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を事前に設定していない場合は、次の手順をガイドラインとして、LDAP を使用した認証をサポートするように User Management を設定することができます。

**注意：**以前の LiveCycle 製品用に LDAP を選択している場合、この手順はスキップします。LDAP の設定はアップグレードプロセス中に移行されます。

### ▶ LDAP に対応するように User Management を設定するには

1. Web ブラウザを開き、<http://localhost:8080/adminui> に移動して、ログインします ([「モジュールの Web アプリケーションへのアクセス」\(38 ページ\)](#) を参照)。
2. 設定/User Management/ドメインの管理をクリックし、「新規エンタープライズドメイン」をクリックします。
3. 「ID」ボックスに、ドメインの一意の ID を入力します。
4. 「名前」ボックスに、ドメインの識別名を入力します。
5. 「認証を追加」をクリックし、「認証プロバイダ」リストで「LDAP」を選択します。
6. 「OK」をクリックし、表示されるページで「ディレクトリを追加」をクリックします。
7. 「プロファイル名」ボックスに名前を入力し、「次へ」をクリックします。
8. 必要に応じて、「サーバー」、「ポート」、「SSL」および「バインド」ボックスの値を指定します。
9. 「ページに次の情報を入力」で、ディレクトリ設定オプション（「Sun ONE のデフォルト値」など）を選択して、「次へ」をクリックします。
10. 必要に応じて「ユーザーの設定」を設定して、「次へ」をクリックします。
11. 必要に応じて「グループの設定」を設定して、「テスト」または「完了」をクリックします。
12. (オプション) 設定をテストします。
  - 「テスト」をクリックします。
  - 「テストディレクトリ」ウィンドウの「検索」ボックスにオブジェクト名を入力し、「条件」ボックスでオブジェクトタイプ（「ログイン ID」など）を選択します。
  - 「テスト」をクリックします。成功すると、オブジェクトの詳細が表示されます。その後「戻る」をクリックできます。
13. 「完了」をクリックして、ディレクトリを追加ページを閉じ、もう一度「OK」をクリックします。

**注意：**LDAP サーバーを同期して、新しい設定が有効になることを確認してください。

## 4.15 LiveCycle 7.x からアップグレードする場合の考慮事項

LiveCycle 7.x または 8.x から LiveCycle ES2 Process Management にアップグレードする場合、正常な機能を復元するためには、電子メール関連のいくつかの設定を手動で行う必要があります。そのため、Form Manager 7.x または Process Management 8.x で、次に示すユーザーの環境設定のいずれかを設定していた場合は、ここで説明する手順に従って、これらの設定を手動で設定する必要があります。

### ▶ 電子メールの添付形式：

電子メールの添付形式設定では、電子メール通知メッセージにフォームのコピーを添付するかどうかを指定します。これにより、ユーザーはフォームの内容（タスク）を編集してから、電子メールで送信することができます。

**注意：** PDF および XDP の添付ファイルのみがサポートされています。

アップグレード後に電子メールでタスクを送信するには、次の手順に従い、Workspace ES2 でユーザーごとに環境設定を設定する必要があります。

1. `http://[host]:[port]/workspace` に移動して、Workspace ES2 アプリケーションにログインします。
2. 環境設定 / UI 設定の管理に移動します。
3. 「電子メールの添付形式」の値を「はい」に設定します。

LiveCycle ES2 では電子メールタスクの管理方法が変更されているため、LiveCycle Administrator のユーザーは、Complete Task の電子メールエンドポイントを作成して、Form Manager 7.x で作成された、電子メールによるユーザーの操作を必要とするプロセスを実行できるようにする必要があります。

### ▶ Complete Task の電子メールエンドポイント：

1. `http://[host]:[port]/adminui` に移動して、LiveCycle 管理コンソールにログインします。
2. サービス / アプリケーションおよびサービス / サービスの管理に移動し、「Complete Task: 1.0」サービスをクリックします。
3. Configure Complete Task 画面で、「エンドポイント」タブをクリックし、リストから「電子メール」を選択して、「追加」をクリックします。
4. 必要に応じてエンドポイントを設定し、「追加」をクリックします。
5. 必要に応じて、サービス / アプリケーションおよびサービス / エンドポイントの管理に移動し、新しいエンドポイントを有効にします。

アップグレードプロセス中に、タスクの割り当てとリマインダ電子メールの設定がデフォルト値に戻ります。

## 4.16 HTML 電子署名の設定

Forms ES2 の HTML 電子署名機能を使用するには、次の手順を実行します。

### ▶ HTML 電子署名を有効にするには

1. `[LivecycleES2 root]/deploy/adobe-forms-ds.ear` ファイルをアプリケーションサーバーに手動でデプロイします。
2. LiveCycle 管理コンソールにログインし、サービス / LiveCycle Forms ES2 をクリックします。
3. 「HTML 電子署名が有効です」を選択し、「保存」をクリックします。

## 4.17 PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 の設定

LiveCycle PDF Generator ES2 または LiveCycle PDF Generator 3D ES2 を LiveCycle ES2 ソリューションの一部としてインストールしている場合は、次のタスクを実行します。

- [「環境変数の設定」\(44 ページ\)](#)
- [「HTTP プロキシサーバーを使用するようにアプリケーションサーバーを設定」\(45 ページ\)](#)
- [「Adobe PDF プリンタをデフォルトのプリンタとして設定」\(45 ページ\)](#)
- [「Acrobat Professional の設定」\(45 ページ\)](#)
- [「Windows Server 2003 に東アジア文字をインストールするには」\(46 ページ\)](#)
- [「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 監視フォルダのパフォーマンスパラメータの設定」\(46 ページ\)](#)
- [「マルチスレッドファイル変換のユーザーアカウントの設定」\(47 ページ\)](#)
- [「PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 へのフォントの追加」\(47 ページ\)](#)
- [「HTML から PDF への変換の設定」\(49 ページ\)](#)
- [「Microsoft Visio 2007 のデフォルトのマクロ設定を変更する」\(50 ページ\)](#)

### 4.17.1 環境変数の設定

PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 をインストールして、ファイルを PDF に変換するよう設定している場合は、一部のファイル形式に関して、対応するアプリケーションを起動する実行可能ファイルの絶対パスを含む環境変数を手動で設定する必要があります。次の表に、PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 で使用するためには環境変数を設定する必要のあるネイティブアプリケーションを示します。

アプリケーション	環境変数	例
Acrobat 9.3	Acrobat_PATH	C:\Program Files\Adobe\Acrobat 9.3\Acrobat\Acrobat.exe
Adobe FrameMaker®	FrameMaker_PATH	C:\Program Files\Adobe\FrameMaker7.1\FrameMaker.exe
メモ帳	Notepad_PATH	C:\WINDOWS\Notepad.exe
OpenOffice.org	OpenOffice_PATH	C:\Program Files\OpenOffice.org 3.0
Adobe PageMaker®	PageMaker_PATH	C:\Program Files\Adobe\PageMaker 7.0\PageMaker.exe
WordPerfect	WordPerfect_PATH	C:\Program Files\WordPerfect Office 12\Programs\wpwin12.exe

**注意：** OpenOffice\_PATH 環境変数は、実行可能ファイルのパスではなくインストールフォルダを設定します。

Word、PowerPoint、Excel、Visio、Project などの Microsoft Office アプリケーションまたは AutoCAD のパスを設定する必要はありません。これらのアプリケーションがサーバーにインストールされている場合は、Generate PDF サービスが自動的にこれらのアプリケーションを起動します。

## 4.17.2 HTTP プロキシサーバーを使用するようにアプリケーションサーバーを設定

LiveCycle ES2 が実行されているコンピュータが、プロキシ設定を使用して外部 Web サイトにアクセスしている場合、アプリケーションサーバーは、次の値を Java 仮想マシン (JVM™) 引数として設定して起動する必要があります。

```
-Dhttp.proxyHost=[server host]
-Dhttp.proxyPort=[server port]
```

### ▶ JBoss に設定を追加するには

1. JBoss Application Server が停止していることを確認します。
2. コマンドラインから、[JBossES2 root]/bin/ ディレクトリ内の run スクリプトを編集します。
  - (Windows) run.bat
3. 次のテキストをスクリプトファイルに追加します。

```
Set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS%
-Dhttp.proxyHost=[server host]
-Dhttp.proxyPort=[server port]
```

4. ファイルを保存して閉じます。

## 4.17.3 Adobe PDF プリンタをデフォルトのプリンタとして設定

Adobe PDF プリンタを、サーバーのデフォルトプリンタに設定します。Adobe PDF プリンタがデフォルトとして設定されていない場合、PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 ではファイルを変換できません。

### ▶ デフォルトのプリンタを設定するには

1. スタート/プリンタと FAX を選択します。
2. プリンタと FAX ウィンドウで、「Adobe PDF」を右クリックし、「通常使うプリンタに設定」を選択します。

## 4.17.4 Acrobat Professional の設定

この手順は、LiveCycle Configuration Manager を実行して LiveCycle ES2 をアプリケーションサーバーにデプロイした後で実行できます。

### ▶ Acrobat Professional Extended を PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 で使用する ように設定するには：

1. Acrobat の以前のバージョン (8.1 以前) がインストールされている場合、Windows コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を使用して Acrobat をアンインストールします。
2. 次のいずれかを実行します。
  - メディアを使用する場合は、Acrobat Professional Extended の CD を挿入します。
  - ESD ダウンロードを使用する場合は、使用している ESD のディレクトリから Acrobat Professional Extended をダウンロードします。
3. AutoPlay.exe ファイルを実行して、Acrobat Professional Extended をインストールします。
4. LiveCycle ES2 インストールメディアの additional¥scripts フォルダに移動します。
5. 次のバッチファイルを実行します。

```
Acrobat_for_PDFG_Configuration.bat [LiveCycleES2 root]/pdfg_config
```

6. Acrobat を開き、ヘルプ/アップデートの有無をチェック/環境設定を選択します。
7. 「自動的に新しいアップデートを確認する」を選択解除します。

▶ **Acrobat Professional Extended のインストールを検証するには**

1. システム上の PDF ファイルに移動し、そのファイルをダブルクリックして Acrobat で開きます。PDF ファイルが正常に開いた場合は、Acrobat Professional Extended が正しくインストールされています。
2. PDF ファイルを正しく開くことができない場合は、Acrobat をアンインストールしてから再インストールします。

**注意：** Acrobat のインストール完了後に表示される Acrobat のすべてのダイアログボックスを閉じてから、Acrobat の自動アップデートを無効化してください。

環境変数 `Acrobat_PATH` を、Acrobat.exe を指すように設定してください (C:\Program Files\Adobe\Acrobat 9.0\Acrobat\Acrobat.exe など)。

▶ **ネイティブアプリケーションサポートを設定するには**

1. 前の手順で説明したように、Acrobat をインストールして検証します。
2. Adobe PDF プリンタをデフォルトのプリンタとして設定します。
3. **(PDF Generator 3D ES2)** [LiveCycleES2 root]\plugins\86\_win32\PDFG3dAddin.dll にある DLL ファイルを登録します。

## 4.17.5 Windows Server 2003 に東アジア文字をインストールするには

PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 を使用して HTML ファイルを PDF に変換すると、日本語、韓国語、中国語などの一部の東アジア言語は、アラビア語、アルメニア語、グルジア語、ヘブライ語、インド系言語、タイ語、ベトナム語などの右から左方向に書く言語同様、PDF ファイルに表示されない可能性があります。

これらの言語を Windows Server 2003 で正常に表示するには、クライアントおよびサーバーに適切なフォントが必要です。

▶ **Windows Server 2003 に東アジア文字をインストールするには**

1. スタート/コントロールパネル/地域と言語のオプションを選択します。
2. 「言語」タブをクリックし、「東アジア言語のファイルをインストールする」を選択します。
3. 「詳細設定」タブをクリックし、「コードページ変換テーブル」のすべてのオプションを選択します。

変換された PDF ファイルで依然としてフォントが正しく表示されない場合は、C:\WINDOWS\Fonts ディレクトリに Arial Unicode MS (True Type) フォント (ARIALUNI.TTF) があることを確認します。

## 4.17.6 PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 監視フォルダのパフォーマンスパラメータの設定

監視フォルダを使用した PDF の変換に十分なディスク容量がないことを示す `java.io.IOException` エラーメッセージが発生しないように、LiveCycle 管理コンソールで PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 の設定を変更できます。

▶ **PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 のパフォーマンスパラメータを設定するには**

1. LiveCycle 管理コンソールにログインして、サービス/アプリケーションおよびサービス/サービスの管理をクリックし、サービスのリストで「PDFGConfigService」をクリックします。

2. 「PDFGConfigService を設定」 ページで、次の値を設定します。

**PDFG Cleanup Scan Seconds** : 1800

**Job Expiration Seconds** : 6000

**Server Conversion Timeout** : 450

### 4.17.7 マルチスレッドファイル変換のユーザーアカウントの設定

PDF Generator ES2 では、一度に 1 つの OpenOffice、Microsoft Word または PowerPoint ドキュメントのみをデフォルトで変換できます。マルチスレッド変換を有効にすると、OpenOffice または PDFMaker の複数のインスタンスを起動して PDF Generator ES2 で同時に複数のドキュメントを変換できます (PDFMaker は、Word 文書と PowerPoint ドキュメントの変換に使用されます)。

**注意** : マルチスレッドファイル変換は、Microsoft Word 2007 および Microsoft PowerPoint 2007 のみでサポートされています。Microsoft Excel 2003 および Microsoft Excel 2007 ではサポートされていません。

マルチスレッドファイル変換を有効にするには、『[LiveCycle ES2 のインストールの準備 \(シングルサーバー\)](#)』ガイドの「マルチスレッドファイル変換の有効化」の節で説明されているタスクを実行する必要があります。

#### ▶ ユーザーアカウントの追加 :

1. LiveCycle Configuration Manager で、サービス / LiveCycle PDF Generator ES2 / ユーザーアカウントをクリックします。
2. 「追加」をクリックし、LiveCycle ES2 サーバー上での管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。OpenOffice のユーザーを設定する場合は、最初に表示される OpenOffice のアクティベート用のダイアログを閉じます。

**注意** : OpenOffice のユーザーを設定する場合、OpenOffice のインスタンス数を、この手順で指定したユーザーアカウント数よりも大きくすることはできません。

3. LiveCycle ES2 サーバーを再起動します。

### 4.17.8 PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 へのフォントの追加

LiveCycle ES2 には、Adobe LiveCycle ES2 Fonts Management というフォントの中央リポジトリがあり、すべての LiveCycle ES2 モジュールからアクセスできます。サーバー上の LiveCycle ES2 以外のアプリケーションで、追加フォントを使用できるように設定します。これにより、PDF Generator では、そのアプリケーションを使用して作成された PDF ドキュメントで追加フォントを使用できるようになります。

#### 4.17.8.1 LiveCycle 以外のアプリケーション

次のリストには、PDF Generator ES2 または PDF Generator 3D ES2 でサーバー側の PDF 生成に使用できる LiveCycle ES2 以外のアプリケーションが含まれています。

##### Windows 専用アプリケーション

- Microsoft Office Word
- Microsoft Office Excel
- Microsoft Office PowerPoint
- Microsoft Office Project
- Microsoft Office Visio

- Microsoft Office Publisher
- AutoDesk AutoCAD
- Corel WordPerfect
- Adobe Photoshop CS
- Adobe FrameMaker
- Adobe PageMaker
- Adobe Acrobat Professional Extended

#### マルチプラットフォームアプリケーション

- OpenOffice Writer
- OpenOffice Calc
- OpenOffice Draw
- OpenOffice Impress

**注意：**これらのアプリケーションの他にも、各ユーザーが追加したアプリケーションが含まれている場合があります。

上記のアプリケーションのうち OpenOffice スイート (Writer、Calc、Draw および Impress) は、他のアプリケーションが Windows にのみ対応しているのに対して、Windows、Solaris™ および Linux® プラットフォームに対応しています。

### 4.17.8.2 Windows 専用アプリケーションへの新しいフォントの追加

上記のすべての Windows 専用アプリケーションでは、C:\Windows\Fonts (または同等の) フォルダにあるすべてのフォントにアクセスできます。これらのアプリケーションには、C:\Windows\Fonts に加えて、それぞれ固有のフォントフォルダが存在する場合があります。

このため、LiveCycle ES2 フォントディレクトリにカスタムフォントを追加する場合、C:\Windows\Fonts (または同等の) フォルダにそのフォントをコピーして、Windows 専用のアプリケーションでもこれらのフォントを使用できるようにする必要があります。

カスタムフォントの使用に際しては、使用許諾契約に基づくライセンスを取得して、そのフォントにアクセスするアプリケーションでの使用が許可されている必要があります。

### 4.17.8.3 OpenOffice スイートへの新しいフォントの追加

OpenOffice スイートへのカスタムフォントの追加方法は、OpenOffice Fonts-FAQ ページ (<http://wiki.services.openoffice.org>) で説明されています。

また、OpenOffice スイートには、フォント関連の動作に関して次のようなリソースがあります。

- 「OpenOffice Fonts Troubleshooting Guide」 (<http://www.openoffice.org/FAQs/fontguide.html>)。このガイドの項目の一部は OpenOffice 1.x にのみ適用されます。したがって、OpenOffice 3.x 以降に関しては情報が古くなっている可能性があります。
- 「Importing Fonts into OpenOffice 2.1」 ([http://openoffice.blogs.com/openoffice/2007/02/font\\_import\\_wiz.html](http://openoffice.blogs.com/openoffice/2007/02/font_import_wiz.html))。このブログは OpenOffice 2.1 を対象としていますが、内容は OpenOffice 2.2 以降にも適用されます。

#### 4.17.8.4 その他のアプリケーションへの新しいフォントの追加

他のアプリケーションに PDF 作成のサポートを追加した場合、これらのアプリケーションのヘルプを参照して新しいフォントを追加します。Windows では、通常はカスタムフォントを C:\Windows\Fonts (または同等の) フォルダに追加すれば十分です。

#### 4.17.9 HTML から PDF への変換の設定

HTML から PDF への変換プロセスは、Acrobat 9 の設定を使用するように設計されています。この設定は、LiveCycle PDF Generator ES2 の設定よりも優先されます。

**注意：** この設定は、HTML から PDF への変換プロセスを有効にするために必要です。設定が行われていない場合、この変換タイプは失敗します。

##### ▶ HTML から PDF への変換を設定するには

1. [「Acrobat Professional の設定」\(74 ページ\)](#) の説明に従って、Acrobat をインストールして検証します。
2. [LiveCycleES2 root]\plugins\win32 ディレクトリにある pdfgen.api ファイルを探し、[Acrobat root]\Acrobat\plug\_ins ディレクトリにコピーします。

##### 4.17.9.1 HTML から PDF への変換における Unicode フォントのサポート

**警告：** 入力用 zip ファイルにファイル名が 2 バイト文字の HTML ファイルが含まれている場合、HTML から PDF への変換は失敗します。この問題を回避するには、HTML ファイルに名前を付けるときに 2 バイト文字を使用しないようにします。

1. Unicode フォントを、使用しているシステムに応じて、次のいずれかのディレクトリにコピーします。
  - [Windows root]\windows\fonts
  - [Windows root]\winnt\fonts
2. [LiveCycleES2 root]/adobe-generatepdf-dsc.jar ファイルにある cffont.properties ファイルで、フォント名マッピングを変更します。
  - このアーカイブを展開し、cffont.properties ファイルを探して、エディタで開きます。
  - Java フォント名のカンマ区切りリストで、フォントタイプごとに、Unicode システムフォントにマップを追加します。以下の例では、kochi mincho が Unicode システムフォントの名前です。

```
dialog=Arial, Helvetica, kochi mincho
dialog.bold=Arial Bold, Helvetica-Bold, kochi mincho ...
```
  - プロパティファイルを保存して閉じ、adobe-generatepdf-dsc.jar ファイルを再パッケージ化して再デプロイします。

**注意：** 日本語のオペレーティングシステムでは、cffont.properties.ja ファイルでもフォントマッピングを指定します。これは、標準の cffont.properties ファイルよりも優先されます。

**ヒント：** リスト内のフォントは、左から右に検索され、最初に見つかったフォントが使用されます。HTML から PDF の変換ログでは、システム内で見つかったすべてのフォント名のリストが返されます。マップが必要なフォント名を特定するには、前述したいずれかのディレクトリにフォントを追加し、サーバーを再起動して変換を実行します。マッピングに使用するフォント名は、ログファイルから特定できます。

生成された PDF ファイルにフォントを埋め込むには、cffont.properties ファイル内の embedFonts プロパティを true に設定します (デフォルトは false)。

## 4.17.10 Microsoft Visio 2007 のデフォルトのマクロ設定を変更する

マクロを含む Microsoft Visio 2007 のファイルを変換しようとする、Microsoft Office Visio のセキュリティに関する通知ダイアログが表示され、変換がタイムアウトします。マクロが含まれているファイルを正常に変換するには、Visio のデフォルトのマクロ設定を変更する必要があります。

### ▶ Visio 2007 のデフォルトのマクロ設定を変更する

- Visio 2007 で、ツール/セキュリティセンター/マクロの設定をクリックし、次のいずれかのオプションを選択して、「OK」をクリックします。
  - 警告を表示せずにすべてのマクロを無効にする
  - すべてのマクロを有効にする

## 4.17.11 PDF Generator ES2 ネットワークプリンタクライアントのインストール

PDF Generator ES2 には、クライアントコンピュータに PDF Generator ES2 ネットワークプリンタをインストールするための実行ファイルが含まれています。インストールが完了すると、PDF Generator ES2 プリンタがクライアントコンピュータの既存のプリンタのリストに追加されます。その後、このプリンタを使用してドキュメントを送信し、PDF に変換することができます。

**注意：** PDF Generator ES2 ネットワークプリンタクライアント (ウィザード) は、32 ビットの Windows プラットフォームのみでサポートされています。

Windows で PDFG ネットワークプリンタのインストールが失敗する場合は、オペレーティングシステムのネイティブのプリンタ追加ユーティリティを使用して、[「Windows でネイティブのプリンタの追加ウィザードを使用して PDFG ネットワークプリンタを設定するには：」 \(50 ページ\)](#) の説明に従って設定してください。

### ▶ PDF Generator ES2 ネットワークプリンタクライアントをインストールするには：

1. PDF Generator ES2 をサーバーに正常にインストールしたことを確認します。
2. Windows クライアントコンピュータから、Web ブラウザに次の URL を入力します。[server] は PDF Generator ES2 をインストールしたサーバーの名前、[port] は使用しているアプリケーションサーバーポートです。

```
http://[server]:[port]/pdfg-ipp/install
```
3. インターネットポートの構成画面で、「指定されたユーザーアカウントを使う」を選択して、PDFG 管理者またはユーザーのロールを持つ LiveCycle ユーザーの秘密鍵証明書を指定します。このユーザーには電子メールアドレスも必要です。このアドレスは、変換済みのファイルを受信する際に使用できます。このセキュリティ設定をクライアントコンピュータ上のすべてのユーザーに適用するには、「すべてのユーザーに同じセキュリティ設定を使う」を選択して、「OK」をクリックします。

インストールが終了すると、Adobe LiveCycle PDF Generator ES2 が正常にインストールされたことを示すダイアログボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックします。使用可能なプリンタのリストに *Adobe LiveCycle PDF Generator ES2* という名前のプリンタが追加されます。

### ▶ Windows でネイティブのプリンタの追加ウィザードを使用して PDFG ネットワークプリンタを設定するには：

1. スタート/プリンタと FAX をクリックし、「プリンタの追加」をダブルクリックします。
2. 「次へ」をクリックし、「ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ」を選択して、「次へ」をクリックします。

3. 「インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンタに接続する」を選択し、次の PDFG プリンタの URL を入力します。[server] はサーバー名、[port] はサーバーを実行しているポート番号です。  
`http://[server]:[port]/pdfg-ipp/printer`
  4. インターネットポートの構成画面で、「指定されたユーザーアカウントを使う」を選択し、User Management の有効な秘密鍵証明書を指定します。
  5. プリンタドライバの選択ボックスで、任意の標準的な PostScript ベースのプリンタドライバ (HP Color LaserJet PS など) を選択します。
  6. 適切なオプション (このプリンタをデフォルトに設定するなど) を選択してインストールを完了します。
- 注意：** プリンタの追加の際に使用するユーザーの資格情報では、応答を受信するために、有効な電子メール ID を User Management で設定する必要があります。
7. 電子メールサービスの sendmail サービスを設定します。サービスの設定オプションで有効な SMTP サーバーと認証情報を指定します。
- ▶ プロキシサーバーのポート転送を使用するように PDF Generator ES2 ネットワークプリンタクライアントをインストールして設定するには
1. CC プロキシサーバーで特定のポートについて LiveCycle ES2 サーバーへのポート転送を設定し、プロキシサーバーレベルで認証を無効にします (LiveCycle ES2 で独自の認証を使用するため)。転送を設定したポートでクライアントがこのプロキシサーバーに接続すると、すべての要求が LiveCycle ES2 サーバーに転送されます。
  2. 次の URL を使用して、PDFG ネットワークプリンタをインストールします。  
`http://[proxy server]:[forwarded port]/pdfg-ipp/install.`
  3. PDFG ネットワークプリンタの認証に必要な資格情報を指定します。
  4. PDFG ネットワークプリンタがクライアントマシンにインストールされます。これにより、ファイアウォールで保護されている LiveCycle ES2 サーバーを使用した PDF 変換が可能になります。

## 4.18 LiveCycle ES2 Connectors for ECM の設定

サポートされる ECM コネクタ (IBM FileNet、EMC Documentum または IBM Content Manager) のいずれかをインストールしている場合、LiveCycle ES2 の設定を完了するには手動のタスクが必要です。『[LiveCycle ES2 のインストールおよびデプロイ \(JBoss 版\)](#)』の「デプロイメント完了後の作業」の該当する節を参照してください。

Connector for IBM FileNet サービスを LiveCycle ES2 ソリューションの一部としてインストールした場合は、次の手順を実行して、FileNet のオブジェクトストアに接続するようサービスを設定する必要があります。

### ▶ FileNet 4.x および CEWS トランスポートを使用してコネクタを設定するには

1. 次の操作を実行します。  
`-Dwaspl.location= <configuration files location>`  
例えば、デフォルトの FileNet Application Engine インストールを Windows オペレーティングシステムで使用する場合、次の Java オプションを追加します。  
`-Dwaspl.location=C:/Progra~1/FileNet/AE/CE_API/wsi`
2. 次の FileNet Application Engine JAR ファイルの場所を指定する、新しいシステムプロパティを追加します。
  - javaapi.jar
  - soap.jar

- wasp.jar
- builtin\_serialization.jar (FileNet 4.0 のみ)
- wsdl\_api.jar
- jaxm.jar
- jaxrpc.jar
- saaj.jar
- jetty.jar
- runner.jar
- p8cjares.jar
- Jace.jar
- (オプション) pe.jar

**注意：** pe.jar ファイルは、デプロイメントで IBMFileNetProcessEngineConnector サービスを使用する場合にのみ追加します。新しいシステムプロパティには、次の構造を反映させる必要があります。

```
[component id].ext=[JAR files and/or folders]
```

**注意：** プロパティファイルの既存のコンテンツを上書きしないでください。コンテンツに新しいシステムプロパティを追加します。

例えば、デフォルトの FileNet Application Engine インストールを Windows オペレーティングシステムで使用する場合、次のシステムプロパティをファイルに追加します。その際、システムプロパティは新しい行に記述し、行中に改行を入れず、末尾で改行してください。

**注意：** 次のテキストには、改行が含まれています。このテキストを、このドキュメント以外の場所にコピーする場合は、新しい場所に貼り付けるときに改行を削除してください。

```
com.adobe.livecycle.ConnectorforIBMFileNet.ext=  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/lib2/javaapi.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/Workplace/WEB-INF/lib/soap.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/wasp.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/builtin_serialization.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/wsdl_api.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/jaxm.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/jaxrpc.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/saaj.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/jetty.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/wsi/lib/runner.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/lib2/p8cjares.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/CE_API/lib/Jace.jar,  
C:/Program Files/FileNet/AE/Workplace/WEB-INF/lib/pe.jar
```

**注意：** C:\Program Files\FileNet\AE\Workplace\WEB-INF\lib\pe.jar は、実際のデプロイメントで IBMFileNetProcessEngineConnector サービスを使用している場合のみ追加します。

**注意：** FileNet 4.5 の場合は、C:/Program Files/FileNet/AE/CE\_API/wsi/lib/builtin\_serialization.jar, の行を削除します。

3. (FileNet Process Engine Connector のみ) 次の手順で、プロセスエンジンの接続プロパティを設定します。
  - テキストエディタを使用してファイルを作成し、次のコンテンツを 1 行で入力します。末尾で改行してください。

```
RemoteServerUrl = cemp:http://[contentserver_IP]:[contentengine_port]/wsi/FNCEWS40DIME/
```
  - このファイルを WcmApiConfig.properties という名前で別のフォルダに保存して、そのフォルダの場所を adobe-component-ext.properties ファイルに追加します。  
例えば、このファイルを c:\pe\_config\WcmApiConfig.properties として保存して、パス c:\pe\_config を adobe-component-ext.properties ファイルに追加します。

**注意：** ファイル名では大文字と小文字が区別されます。
4. アプリケーションサーバーが実行されていない場合は、サーバーを起動します。実行されている場合は、サーバーを停止し、再起動します。
5. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。
6. デフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログインします。

**ユーザー名：** administrator  
**パスワード：** password
7. サービス / LiveCycle ES2 Connector for IBM FileNet をクリックします。
8. 必要なすべての FileNet リポジトリ情報を入力し、「リポジトリサービスプロバイダ」の下で「IBM FileNet リポジトリプロバイダ」を選択します。  
オプションのプロセスエンジンサービスをデプロイメントで使用する場合、「プロセスエンジン設定」領域で「プロセスエンジンコネクタサービスを使用」を選択し、プロセスエンジンの各設定を指定します。詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。

**注意：** この手順で指定する秘密鍵証明書は、IBM FileNet リポジトリサービスを後で起動するときに検証されません。秘密鍵証明書が無効な場合はエラーが発生し、サービスは起動されません。
9. 「保存」をクリックして、サービス / アプリケーションおよびサービス / サービスの管理に移動します。
10. IBMFileNetProcessEngineConnector (設定されている場合) の横のチェックボックスを選択して、「開始」をクリックします。
11. 次のいずれかのタスクを実行します。
  - FileNet Authorization サービス (IBMFileNetAuthProviderService) を使用して Workbench ES2 のリソースビューで FileNet オブジェクトストアからコンテンツを表示するには、この手順を続行します。FileNet Authorization サービスを使用すると、デフォルトの LiveCycle ES2 認証が上書きされるため、FileNet の秘密鍵証明書を使用して Workbench ES2 にログインするよう設定する必要があります。
  - LiveCycle ES2 リポジトリを使用するには、LiveCycle ES2 の上級管理者の秘密鍵証明書 (デフォルトは「Administrator」と「password」) を使用して Workbench ES2 にログインします。この場合、手順 8 で指定した秘密鍵証明書は、デフォルトリポジトリにアクセスするためにデフォルトの LiveCycle ES2 認証サービスを使用します。
12. 次のタスクを実行して、Remoting および EJB のエンドポイントを有効にします。
  - LiveCycle 管理コンソールにログインし、ホーム / サービス / アプリケーションおよびサービス / サービスの管理をクリックします。
  - Connector for IBM FileNet カテゴリをフィルタリングして、「IBMFileNetContentRepositoryConnector:1.0」をクリックします。
  - 無効になっているエンドポイントを選択して有効にします。

13. アプリケーションサーバーを再起動します。
14. LiveCycle 管理コンソールにログインし、設定 / User Management / ドメインの管理をクリックします。
15. 「新規エンタープライズドメイン」をクリックして、ドメイン ID と名前を入力します。ドメイン ID は、ドメインの固有の識別子です。名前は、ドメインの識別名です。
16. カスタム認証プロバイダを追加します。
  - 「認証を追加」をクリックします。
  - 「認証プロバイダ」リストで「カスタム」を選択します。
  - 「IBMFileNetAuthProviderService」を選択し、「OK」をクリックします。
17. LDAP 認証プロバイダを追加します。
  - 「認証を追加」をクリックします。
  - 「認証プロバイダ」リストで「LDAP」を選択し、「OK」をクリックします。
18. LDAP ディレクトリを追加します。
  - 「ディレクトリを追加」をクリックし、「プロファイル名」ボックスに一意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
  - 「サーバー」、「ポート」、「SSL」、「バインド」および「ページに次の情報を入力」オプションの値を指定します。「バインド」オプションで「ユーザー」を選択する場合は、「名前」と「パスワード」フィールドにも値を指定する必要があります。
  - (オプション) 必要に応じてベースドメイン名を取得するには、「BaseDN を取得」を選択します。完了したら、「次へ」をクリックします。
  - ユーザー設定を指定し、「次へ」をクリックし、必要に応じてグループ設定を指定して「次へ」をクリックします。

設定について詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックしてください。
19. 「OK」をクリックして「ディレクトリを追加」ページを閉じ、もう一度「OK」をクリックします。
20. 新しいエンタープライズドメインを選択し、「今すぐ同期」をクリックします。LDAP ネットワークのユーザーとグループ数および接続の速度によって、同期処理には数分かかる場合があります。

(オプション) 同期のステータスを確認するには、「更新」をクリックし、「現在の同期の状態」列にステータスを表示します。
21. 設定 / User Management / ユーザーとグループをクリックします。
22. LDAP から同期されたユーザーを検索し、以下のタスクを実行します。
  - 1 つ以上のユーザーを選択し、「ロールをアサイン」をクリックします。
  - 1 つ以上の LiveCycle ES2 ロールを選択し、「OK」をクリックします。
  - 「OK」をもう一度クリックして、ロールアサインを確認します。

ロールをアサインするすべてのユーザーについて、この手順を繰り返します。詳しくは、ページの右上隅にある「ヘルプ」リンクをクリックします。
23. Workbench ES2 を起動して、IBM FileNet リポジトリ用の次の秘密鍵証明書を使用してログインします。

**ユーザー名:** [username]@[repository\_name]  
**パスワード:** [password]

これで、FileNet オブジェクトストアが Workbench ES2 のリソースビューに表示されます。  
[username]@[repository\_name] を使用してログインしない場合、Workbench ES2 では、手順 8 で指定したデフォルトリポジトリへのログインが試行されます。

24. (オプション) Connector for IBM FileNet の LiveCycle ES2 サンプルをインストールする場合、Samples という名前の FileNet オブジェクトストアを作成してその中にインストールします。

Connector for IBM FileNet サービスを設定したら、FileNet リポジトリを使用した Workbench ES2 の機能の正しい設定について、[LiveCycle ES2 管理ヘルプ](#)を参照することをお勧めします。

## 4.19 SharePoint クライアントアクセスの設定

Microsoft SharePoint クライアントを設定して、LiveCycle ES2 からコンテンツサービスにアクセスできます。そのためには、LiveCycle Configuration Manager を使用して、SharePoint Alfresco Module Package を追加します。SharePoint AMP ファイル (adobe-vti-module.amp) は、[LiveCycleES2 root]¥LiveCycle\_ES\_SDK¥misc¥ContentServices フォルダにあります。

SharePoint AMP を追加した後で、次の手順を実行します。

### 4.19.1 share.war ファイルの取得と編集

Alfresco CMS では、share.war ファイルを使用して、Content Services ES2 に接続します。SharePoint クライアントが Content Services ES2 にアクセスできるようにするには、share.war ファイルを変更する必要があります。

1. Alfresco インストールから share.war を取得します。詳しくは、Alfresco のドキュメントを参照してください。
2. ファイルシステム内のディレクトリに share.war ファイルをコピーします。
3. WinRar などのファイルアーカイブユーティリティを使用して、share.war ファイルを開きます。
4. ファイルアーカイブユーティリティのウィンドウから、ファイル WEB-INF/classes/alfresco/webscript-framework-config.xml を抽出し、テキストエディタで開きます。
5. 行 `<endpoint-url>http://localhost:8080/alfresco/s</endpoint-url>` を探して、これを `<endpoint-url>http://localhost:8080/contentspace/s</endpoint-url>` に変更します。
6. ファイルを保存して閉じます。

### 4.19.2 share.war ファイルのデプロイ

1. WinRar などのアーカイブユーティリティを使用し、[JBossES2 root]/server/lc\_turnkey/deploy/ ディレクトリで、アーカイブファイル adobe-contentservices.ear を開きます。
2. アーカイブユーティリティのウィンドウで開いた adobe-contentservices.ear アーカイブに、更新済みの share.war ファイルを追加します。
3. ファイルアーカイブユーティリティのウィンドウからローカルファイルシステムのフォルダに、ファイル application.xml を抽出して、テキストエディタで開きます。このファイルは、adobe-contentservices.ear¥META-INF ディレクトリにあります。
4. `<application >` タグの下に、次の行を追加します。

```
<module id="Share">
  <web>
    <web-uri>share.war</web-uri>
    <context-root>/share</context-root>
  </web>
</module>
```

5. 更新した application.xml ファイルを、adobe-contentservices.ear アーカイブにコピーして戻します。
6. アーカイブを保存して閉じます。
7. 更新した EAR ファイルを [JBossES2 root]/server/lc\_turnkey/deploy/ ディレクトリにコピーして、その更新した EAR ファイルをデプロイします。

## 4.20 IPv6 モードでの CIFS の有効化

IPv6 の実装で Content Services ES2 の CIFS を有効にする場合は、LiveCycle ES2 をホストするマシンに補足の IPv6 アドレスを明示的に追加する必要があります。この IPv6 アドレスは、クライアントと同じサブネットに存在する静的 IP アドレスであることが必要です。LiveCycle Configuration Manager を使用して LiveCycle ES2 を設定した後で、次のタスクを実行する必要があります。通常は、EAR ファイルの設定の後で LiveCycle Configuration Manager を一時停止してから、EAR ファイルを編集します。EAR ファイルを編集した後で LiveCycle Configuration Manager に戻り、更新した EAR ファイルを、選択した他の EAR ファイルと共にデプロイできます。

### 4.20.1 contentservices.war ファイルの編集

1. [LiveCycleES2 root]¥configurationManager¥export ディレクトリに移動します。
2. WinRar などのファイルアーカイブユーティリティを使用して、contentservices.war ファイルを開きます。
3. ファイルアーカイブユーティリティのウィンドウから、ファイル contentservices.war¥WEB-INF¥classes¥alfresco¥file-services-custom.xml を抽出して、テキストエディタで開きます。
4. 次の行を探し、ipv6="enabled" を追加して、この行を変更します。

```
<tcpipSMB platforms="linux,solaris,macosx,windows,AIX"/>
```

これを次のように変更します。

```
<tcpipSMB platforms="linux,solaris,macosx,windows,AIX" ipv6="enabled"/>
```
5. ファイルを保存して閉じます。
6. ファイルアーカイブユーティリティのウィンドウからローカルファイルシステムのフォルダに、ファイル contentservices.war¥WEB-INF¥classes¥alfresco¥extension¥file-servers-properties を抽出して、テキストエディタで開きます。
7. 行 cifs.ipv6=disabled を探して、cifs.ipv6=enabled に置き換えます。
8. ファイルを保存して閉じます。
9. 更新した file-servers-custom.xml ファイルを、contentservices.war¥WEB-INF¥classes¥alfresco¥extension¥ にあるアーカイブにコピーします。
10. contentservices.war ファイルを保存します。

EAR ファイルを更新した後で、LiveCycle Configuration Manager を使用して、更新した EAR ファイルをデプロイする必要があります。

## 4.21 アップグレード後の LiveCycle ES のアンインストール

LiveCycle ES (8.x) 環境を LiveCycle ES2 にアップグレードし、新しいシステムが正常に動作していることを検証したら、LiveCycle ES (8.x) 製品ファイルを削除できます。

**警告：** LiveCycle ES2 製品ファイルをアンインストールするときは、アンインストールプロセス中に「MySQL」オプションを選択しないでください。MySQL データベースは新しい LiveCycle ES2 にも使用されます。このデータベースを削除すると、重大なエラーが発生します。

アンインストールプログラムでは、PDF Generator ES と共にインストールした Acrobat は削除されません。Acrobat のアンインストールプログラムを使用してください。

### ▶ 次の手順で製品ファイルを削除します。

1. スタート/コントロールパネル/プログラムの追加と削除を選択し、「LiveCycle ES (8.x)」をクリックして、「削除」をクリックします。
2. LiveCycle ES コンポーネントと共にこのコンポーネントを削除する JBoss を選択します。
3. 画面上の指示に従って操作し、「完了」をクリックします。
4. コンピュータを再起動します。

**注意：** LiveCycle ES (8.x) は、[LiveCycleES\_root]¥\_uninst¥server から削除することもできます。

## 4.22 アップグレード後の作業ファイルの削除

アップグレードの際、LiveCycle ES (8.x) データベースから情報が抽出され、作業ファイルに書き込まれます。その後、この作業ファイルから情報が LiveCycle ES2 データベースに移行されます。データ移行の完了後、このファイルは [LiveCycleES2 root]/configurationManager/working/upgrade ディレクトリに残っています。

アップグレードが完了したら、これらのファイルの大半は不要になります。アップグレードされた LiveCycle ソリューションコンポーネントによっては、一部のデータにパスワードやドキュメントの暗号キーなど機密性の高い情報が含まれている場合もあります。ディスク領域を節約し、システムのセキュリティを維持するには、アップグレードの完了（必須データおよび必須ではないデータの移行）を確認した後、このディレクトリのファイルのほとんどを削除します。これにより、LiveCycle ES2 が予想どおりに作業するようにします。

[LiveCycleES2 root]/configurationManager/working/upgrade ディレクトリに移動し、sharedData ファイル以外のすべてのファイルを削除します。

## 4.23 システムイメージバックアップの実行

実稼働環境に LiveCycle ES2 をインストールおよびデプロイした後、このシステムを稼働する前に、LiveCycle ES2 を実装したサーバーのシステムイメージバックアップを実行することをお勧めします。このバックアップには、LiveCycle ES2 のデータベース、GDS ディレクトリおよびアプリケーションサーバーを含める必要があります。これは、ハードドライブまたはコンピュータ全体が動作しなくなった場合に、コンピュータの内容の復元に使用できる完全なシステムバックアップです。[LiveCycle ES2 管理ヘルプ](#)の「LiveCycle ES2 のバックアップおよび回復」トピックを参照してください。

## 4.24 LiveCycle ES2 のアンインストール

LiveCycle ES2 のアンインストールプログラムを使用すると、自動インストールの場合に JBoss、MySQL または LiveCycle ES2 のコンポーネントを選択して削除できます。MySQL を削除する前に、残す必要があるデータをバックアップします。

▶ **製品ファイルを削除するには：**

1. スタート/コントロールパネル/プログラムの追加と削除を選択し、「LiveCycle ES2」をクリックして、「削除」をクリックします。
2. LiveCycle ES2 コンポーネントと同様に JBoss と MySQL のコンポーネントを削除するには、「JBoss」と「MySQL」を選択します。
3. 画面上の指示に従って操作し、「完了」をクリックします。
4. 指示に従い、コンピュータを再起動します。

**注意：** LiveCycle ES2 のアンインストール後も JBoss または MySQL を使用し続ける場合は、Microsoft Windows の **プログラムの追加と削除ユーティリティ**を使用して、後でこれらのアプリケーションを削除できます。JDK がサーバーにインストールされていない場合、JBoss や MySQL の削除に失敗する可能性があります。

# 5

## 高度な設定作業

ここでは、LiveCycle ES2 環境に必要なインストール後の高度なタスクについて説明します。次のトピックについて説明します。

- 「連邦情報処理規格（FIPS）の有効化」
- 「AES-256 暗号化の有効化」

### 5.1 連邦情報処理規格（FIPS）の有効化

LiveCycle ES2 には FIPS モードがあり、RSA BSAFE Crypto-C 2.1 暗号化モジュールを使用して、データ保護を連邦情報処理規格（FIPS）140-2 承認アルゴリズムに限定しています。

LiveCycle ES2 の設定中に LiveCycle Configuration Manager を使用してこのオプションを有効化しなかった場合、または有効化した設定を無効化する場合は、LiveCycle 管理コンソールからこの設定を変更できます。

FIPS モードを変更した場合は、サーバーを再起動する必要があります。

FIPS モードでは、Acrobat のバージョン 7.0 以前はサポートされていません。FIPS モードが有効になっており、パスワードを使用した暗号化およびパスワードの削除の各プロセスに Acrobat 5 の設定が含まれている場合、プロセスは失敗します。

通常、FIPS が有効化されていると、Assembler サービスでは、どのドキュメントにもパスワードの暗号化が適用されません。この処理が試行されると、`FIPSMODEException` が発生し、FIPS モードではパスワードを暗号化できないことが示されます。また、ベースドキュメントがパスワードで暗号化されている場合、`PDFsFromBookmarks` エレメントは FIPS モードではサポートされません。

#### ▶ FIPS モードをオンまたはオフにするには

1. LiveCycle 管理コンソールにログインします。
2. 設定／コアシステム設定／設定をクリックします。
3. 「FIPS を有効にする」を選択して FIPS モードを有効化するか、選択を解除して FIPS モードを無効化します。
4. 「OK」をクリックして、アプリケーションサーバーを再起動します。

**注意：** LiveCycle ES2 ソフトウェアでは、FIPS の互換性を確認するためのコードの検証を行いません。FIPS 操作モードは、FIPS で承認されたライブラリ（RSA）の暗号化サービスで、FIPS で承認されたアルゴリズムが使用されるようにするために提供されています。

### 5.2 AES-256 暗号化の有効化

PDF ファイルに AES 256 暗号化を使用するには、Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy ファイルを入手し、インストールします。それらのファイルで、`[JAVA_HOME]/lib/security` フォルダの `local_policy.jar` ファイルと `US_export_policy.jar` ファイルを置き換えます。例えば、Sun JDK 1.6 を使用している場合、ダウンロードファイルを `[LiveCycleES2 root]/Java/jdk1.6.0_14/lib/security` フォルダにコピーします。

[Java SE Downloads](#) からこれらのファイルをダウンロードすることができます。